

【開催日時】

2019年 8月8日(木) 13:30～16:30 (開場13:00)

【開催会場】

金沢勤労者プラザ 101研修室
(石川県金沢市北安江3-2-20)

■ プログラム

1. 開会

開会挨拶：北信越ユネスコスクール交流会in金沢2019

実行委員長 加藤 隆弘

2. ESD・ユネスコスクールを巡る最新の動向

ESD活動支援センター 副センター長 鈴木 克徳 氏

3. 『金沢SDGs IMAGINE KANAZAWA 2030』の
推進について

金沢市都市政策局企画調整課 笠間 彩 主査

4. 私がESDで大切にしていること

～ 5年・6年の2か年の総合の実践から ～

富山県舟橋村立舟橋小学校 尾島 良幸 教諭

… スモールグループによる討議の準備〈休憩〉 …

5. スモールグループによる討議・発表準備

6. 各グループからの発表

7. 閉会

北信越ユネスコスクール
交流会in金沢2019



	北信越ユネスコスクール交流会in金沢2019 参加者			
	役 職	氏 名	学 校・所属先	資料
1	教務主任	善光 幸代	富山市立五福小学校	●1
2	教諭	石坂 友輔	富山市立堀川小学校	●2
3	教務主任	津幡 和英	富山市立奥田北小学校	●3
4	教諭	宮田 直子	富山市立中央小学校	●4
5	教諭	曲師 ひとみ	南砺市立福野小学校	●5
6	教諭	柿埜 由紀子	高岡市立成美小学校	●6
7	臨任講師	森谷 純子	氷見市立朝日丘小学校	●7
8	自然科学コース部 部長	竹内 元人	富山県立富山東高等学校	
9	学生(4年)	押田 彩華	富山国際大学	
10	指導主事	浅野 薫史	富山市教育委員会 学校教育課	
11	コーディネーター・副会長	水上 庄子	富山ユネスコ協会	
12	教諭	藏 幹子	金沢市立兼六小学校	●8
13	教諭	廣瀬 健介	平泉寺小学校	●9
14	教諭	島田 洋子	成器南小学校	●10
15	教諭	齋藤 珠樹	成器西小学校	●11
16	教諭	林 裕美	村岡小学校	●12
17	教諭	松浦 綾香	三室小学校	●13
18	教諭	高崎 実佳	荒土小学校	●14
19	教諭	寺島 亮太	鹿谷小学校	●15
20	教諭	飯野 正樹	北郷小学校	●16
21	教諭	臼井 孝礼	勝山南部中学校	●17
22	教諭	宮口 了	勝山中部中学校	●18
23	教頭	金巻 健朗	勝山北部中学校	●19
24	指導主事	安居 幸恵	勝山市教育委員会	
25	教諭	三谷 暢子	名古屋市立菊井中学校	
26	教諭	直江 鉄平	いいづな学園グリーン・ヒルズ小学校	●20
27	教諭	林 功将	山ノ内町立南小学校	●21
28	助教	水谷 瑞希	信州大学教育学部	●22
29	理事	豊原 菊生	石川県ユネスコ協会	
30	環境省	溝手 康人	環境省中部地方環境事務所 環境対策課	
31		清本 三郎	中部地方ESD活動支援センター	
32		原 理史	中部地方ESD活動支援センター	
33	事務局・記録担当	富田 夏子	中部地方ESD活動支援センター	
34	コーディネーター・教授	成瀬 喜則	富山大学大学院教職実践開発研究科	
35	コーディネーター・教育長	松本 謙一	南砺市教育委員会	
36	講演者	尾島 良幸	舟橋村立舟橋小学校	
37	コーディネーター	今井 和愛	金城大学・石川県ユネスコ協会	
38	事務局	野崎 幸生	石川県ユネスコ協会事務局長	
39	コーディネーター・准教授	河内 幾帆	金沢大学国際基幹教育院	
40	副センター長・講演者	鈴木 克徳	ESD活動支援センター	
41	コーディネーター・准教授	加藤 隆弘	金沢大学人間社会研究域	
42	コーディネーター・教授	新 広昭	金沢星陵大学経済学部	
43	コーディネーター・講師	福江 厚啓	北陸学院大学人間総合学部	
44	コーディネーター	池端 弘久		
45	コーディネーター・准教授	松山 友之	富山国際大学子ども育成学部	
46		中川 隆政	東京都産業労働局 農林水産部	
47	主査・講演者	笠間 彩	金沢市都市政策局企画調整課	

ESDの取組

富山市立五福小学校

所在地 〒 9 3 0 - 0 8 8 7
富山県富山市五福 4 4 3 1 - 2
E-mail(代表アドレス) gofukusho@city.toyama.lg.jp
Website <http://www.gofuku-e.tym.ed.jp/>
ユネスコスクール加盟年 平成 2 2 年

2 活動内容

(1) 活動分野

- | | | | |
|--|---|--|---|
| ☒ 環境 | ☐ エネルギー | ☐ 防災 | ☒ 生物多様性 |
| ☐ 気候変動 | ☒ 国際理解 | ☒ 世界遺産や地域遺産等 | |
| ☒ 人権・平和 | ☒ 健康・福祉 | ☐ 食育 | |
| ☐ 持続可能な生産と消費 | ☐ 貧困 | ☐ エコパーク※ ¹ | |
| ☐ ジオパーク※ ² ☐ グローバル・シチズンシップ教育 (GCED)※ ³ | | | |
| ☐ その他 | | | |



(2) 活動の概要

本校は、「自立と共生」を学校理念として、ESDを重点指導事項と捉え、ESDの実践を通して広い視野で考え、自ら進んで「ひと・もの・こと」に関わり、見通しをもって課題を解決する力の育成を目標とした。具体的には、生活科、総合的な学習の時間を柱に、①自然・生命・環境に係わる活動、②地域文化に係わる学習、③福祉に係わる学習、④国際理解に係わる学習を行った。

① 自然・生命・環境に係わる活動

5年生は、呉羽丘陵の探検を通して、身近な自然への興味・関心や疑問を抱き、呉羽丘陵について調べたいことを決めてグループ毎に調査活動を行った。また、きんたろう倶楽部の方々に呉羽丘陵の自然や歴史について教わったり、地域の人と米づくり体験をしたりするなどして、呉羽丘陵に関わる人々の思いにも触れた。そして、呉羽丘陵の魅力を見付け、呉羽のよさを他学年や保護者に発信した。

② 地域文化に係わる学習

3年生は、「五福のすてき！発見隊」として、身近な人の中から自分がすてきだと思う人を見つけて、インタビューし、「五福の〇〇名人」として紹介した。単元の終末には、「名人への道」として、名人に近付くために自分にできることを見付け、計画し、実践する活動を行った。また、「SDGs－ESD 富山シンポジウム」にて、取組の発表を行った。

③ 福祉に係わる学習

4年生は、富山総合支援学校の友達との交流や、校区の保育園の年長児との交流を行った。体が不自由な子供の思いに寄り添ったり、幼児の言葉にできない願いを感じて関わろうとしたりする姿が見られるようになった。誰に対しても、相手の思いを大切にしてお互いの関わることの大切さに気付いたり、思いやりとは何かを考えたりした。

④ 国際理解に係わる学習

6年生は、「共に生きる」をテーマに、世界の状況に目を向け、世界が抱える問題を考える学習を行った。子供たちは、多くの国々が貧困や紛争等の様々な問題にさらされていることを知り、自分たちが当たり前に行っていることができない事実には驚いていた。自分たちにもできることがあるのではないかと考え、世界の困っている人たちの助けになる活動について調べたりJICAの方の話を聞いたりするなど、情報や資料を集めた。そしてやエコキャップ回収や書き損じはがき回収等の活動に取り組んだ。ユネスコ教室にも参加した。

3 ユネスコスクールに加盟したことによる変化

- ・ 地域には、様々な人が住んでいること、魅力的な場所があることを知った。また、世界の現状について、自分の生活と比べたり関わらせたりして学んだ。
- ・ 様々な人や地域との関わりやつながりを大切にしたいという思いが育まれた。
- ・ 自分にできることを見付け、実践しようとする子供が増えた。温かい言葉遣いや相手を思いやる態度が身に付いてきている。
- ・ 特に、生活科や総合的な学習の時間への学習意欲が高まっている。
- ・ 学習参観を兼ねた ESD 実践発表会が好評である。
- ・ 学校教育全体を通したユネスコスクールとしての取組が有効である。

1. 学校に関する基本情報

学校名 富山市立堀川小学校 (※正式名称を記載)

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☒ 小学校 ☐ 小中一貫※注1
☐ 中学校 ☐ 中高一貫※注2 ☐ 高等学校
☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校
☐ 特別支援学校
☐ その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒939-8081

富山県富山市堀川小泉町一丁目13-10

E-mail(代表アドレス) horikawasho@city.toyama.lg.jp

※ご担当者ご異動後も連絡可能なメールアドレスのご記入を推奨しております。

Website <http://swa.toyama-city-ed.jp/horikawa-e>

ユネスコスクール加盟年 2012年



2. 活動内容

① 活動分野（複数選択可）

- | | | | |
|---|--|--|---|
| ☒ 環境 | ☐ エネルギー | ☒ 防災 | ☒ 生物多様性 |
| ☒ 気候変動 | ☒ 国際理解 | ☐ 世界遺産や地域遺産等 | |
| ☒ 人権・平和 | ☐ 健康・福祉 | ☒ 食育 | |
| ☐ 持続可能な生産と消費 | ☒ 貧困 | ☐ エコパーク※1 | |
| ☐ ジオパーク※2 | ☐ グローバル・シチズンシップ教育（GCED）※3 | | |
| ☐ その他 | | | |

※1 生態系の保全と持続可能な利活用の調和と目的とした、ユネスコの事業。生物圏保存地域（ユネスコエコパーク）

※2 地質学的遺産を保護し、持続可能な経済開発の場とすることを目指したユネスコの国際ネットワーク事業

※3 地球市民教育、世界市民教育などとも称される

② 活動の概要（800 字程度）

本校は、「自主創造－くらしをみつめ 追究する子ども－」を教育目標に掲げている。「追究」とは、生きることそのものであり「子どもが身の回りの人、自然、文化、社会などの対象に出会うか、あるいは何らかの出来事との出会いによって、自己の在り方をみつめ、見直し、生きる構えを深めていくこと」と考えている。この考えは、SDGs、ESDの考え方「持続可能な社会の実現を目指し、子ども一人一人が世界の人々や将来の世代、また、環境との関係性の中に生きていることを認識し、よりよい社会づくりに参画するための力を育む教育を展開する」と目指す方向は同じであると考えている。そのため、子どもが一日のくらしを送る中で、各種教育活動（朝活動、くらしの時間、授業、自主活動、地域活動）を一連のものとして意味付けながら、社会的資質や行動力を高めていく子どもを目標とした。

具体的には①環境に係わる活動②社会参画の基礎を養う教育③地域とのつながりに係わる活動を行った。

① 環境に係わる活動（朝活動、自主活動等）

毎日の「朝活動」では、発達段階や子ども一人一人の興味・関心を生かしながら個性を発揮した活動である。身の回りの環境の維持・保全だけでなく、利用する人、目にする人の立場を考え、多くの人がよりよい生活を送れるよう創造的活動に取り組んでいる。

「自主活動」では、子ども自らの発想による子どもの手による営みの場の一つとして設けている。登下校路や校内の安全や挨拶をよびかける看板作りなど、子どもたちが環境に自らはたらきかけることができる時間を日々の生活の中で取り組めるよう位置付けている。

② 社会参画の基礎を養う教育（授業）

各学年の教科学習を基に発展的に取り組んでいる。今年度は、第3学年では、社会科「堀川の道は語る」の学習から、交通環境学習に取り組んだ。校区内の道や交通手段の変化を通して地域の様子の移り変わりを学ぶことで、公共交通と自動車の盛衰から、自分たちの生活の利便性と自然環境への負荷を考えることができた。また、交通がもたらす地域の活性化や、高齢者等の交通弱者の必要性について理解を深めることができた。

③ 地域とのつながりに係わる活動（地域活動）

年に2回行われる地域教育推進協議会を基盤にしながら、地域と手を取り合いながら学校教育の充実を図っている。具体的な活動として、夏休み中の各町内で近隣ファミリー活動や地域教育懇談会がある。また、三世代交流集会や敬老会、堀小ふれあいフェスティバル等の学校行事を生かしながら地域と交流する機会を設けたり、地域の人材を生かした学習を展開したりするなど、地域との交流を行っている。さらに、富山ユネスコ協会主催の事業に参加することで、子どもたちの地域の一員としての意識や態度が醸成されている。

③ 平成 31 年度の活動計画（200～400 字程度）

次年度も、継続して本校「自主創造－暮らしをみつめ 追究する子ども－」の教育目標の下、日々の教育活動（朝活動、くらしの時間、授業、自主活動）を何よりも大切に進めていくことが、SDGsやESDの目指す「持続可能な社会の実現を目指し、子ども一人一人が世界の人々や将来の世代、また、環境との関係性の中に生きていることを認識し、よりよい社会づくりに参画するための力を育む教育を展開する」の具現化になると考え、進めていく方針である。

5月31日（金）と6月1日（土）に行われる第90回教育研究実践発表会を行う。ここでは、子どもたちの日頃の教育活動である朝活動、くらしの時間、授業を公開する。また、平成24年度から毎年実施しているESD実践研究会を今年度も秋頃に予定している。

日頃のくらしの積み重ねこそ、子どもの資質・能力の高まり、行動力の醸成があることを信念に、日々の教育活動と関連を図りながら次年度も活動を進めていく。

富山市立中央小学校

所在地 〒930-0052

富山市五番町4番35号

E-mail(代表アドレス) chuosho@city.toyama.lg.jp

Website www.toyama-chuo-e.tym.ed.jp



活動の概要

本校は「自然にやさしい、人にやさしい、地球にやさしい」を活動テーマとして、ESDの実践を通して7つの能力・態度（批判的に考える力、未来像を予測して計画を立てる力、多面的・総合的に考える力、コミュニケーションを行う力、他社と協力する態度、つながりを尊重する態度、進んで参加する態度）の育成を目標とした。

具体的には、①地域に係わる学習、②福祉に係わる学習、③食に係わる学習、④国際理解に係わる学習を行った。

① 地域に係わる活動

3年生の子供たちは、校区で暮らす人・働く人と関わりながら、出会った人のよさを見つける学習を行った。自分が見つけた素敵な人を「キラリさん」と呼び、交流を重ねたり、「キラリさんマップ」を作成して互いのキラリさんの情報交換をしたりしていくことで、町の人々の温かさや思いに気付くことができた。キラリさんの生き方や考え方から、これからの自分を思い描き行動していこうとしている。



② 福祉に係わる学習

4年生の子供たちは、老人福祉施設を訪問し、施設のお年寄りと交流した。高齢者疑似体験や介護士の話から、お年寄りの気持ちにより添いながら交流することが大切だと気付き、交流の準備を進めた。手作りのゲームと一緒にしたり会話を楽しんだり、交流を重ねるごとに相手に合わせた活動ができるようになってきた。自分が笑顔で接すると相手も笑顔になることを実感し、人に対する優しさを友達や家族、学校全体に広げようと考えた。



③ 食に係わる学習

5年生の子供たちは、有機農法で米作りをしている農家の協力の下、種粃まき、田植え、草取り、稲刈りの稲作体験をした。体験だけでなく、米作りの工夫や努力、有機農法にこだわる思い等も学習した。さらに、自分の食生活を調べて見直したり、日本の食問題について解決策を考えたりした。この学習を通して、食の安心・安全について考えたり、食糧自給率向上のために自分ができることに取り組んだりして、「食」についての関心が高まった。



④ 国際理解に係わる学習

6年生の子供たちは、ごみ捨て場で生活している子供や路上で暮らす子供等、世界の子供たちの現状を知り、自分にできることはないかという思いをもち、実行するという活動を行った。子供たちが学校に通い、読み書きができるように取り組む世界寺子屋運動や、古着や使用済み切手等を回収する企業やNPOの団体に協力した。この活動を通して、世界の子供たちに物を送ることだけでなく、自分の生活の豊かさと親の愛情に感謝して生きることや、自分の周りにいる身近な人にも優しさをさしよるべることの大切さを学んだ。



今年度の活動計画

1・2年

中央小学校のESDのテーマ「自然にやさしい・人にやさしい・地球にやさしい」を意識しながら、生活科の学習を行う。

3年

校区の公共施設や公共交通機関等を調べ、人々の暮らしをどのように支えているのか、それらが設置されている意図や市役所の人の考えを理解し、自分の「まち」に興味をもち、これからの「まち」の未来について考える。

4年生

高齢者との交流を通して、相手の立場を理解し思いやりをもって交流することで、互いが笑顔になることに気づき、自分の周りにいる人々との関わりも考え、実践していく。

5年生

稲作体験を通して、米作りの工夫や苦労を知り、米に込められた思いを感じ取ったり食の大切さに気付いたりする。社会科や稲作体験から学習したことと自分の食生活をつないで、現在の食料事情について考える。

6年

世界の子供たちの現状を知り、子供たちの暮らしの背景を調べたり自分にできることを考えたりする。そして、自分にできることを計画、実践し、自分の生活や身近な人との関わり方を見直す。

1. 学校概要

学校名 富山市立奥田北小学校

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☒ 小学校 ☐ 小中一貫教育
☐ 中学校 ☐ 中高一貫教育 ☐ 高等学校
☐ 教員養成 ☐ 技術/職業教育
☐ 特別支援学校 ☐ その他（ ）

所在地 〒930-0802
富山県富山市下新北町3-72

E-mail nokudasho@city.toyama.lg.jp

Website <http://swa.toyama-city-ed.jp/weblog/index.php?=toyama010&type=5>

児童生徒数 男子 202名 女子 173名 合計 375名
児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 実施活動（複数選択可）

- ☐ 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- ☒ 国際理解
- ☐ 世界遺産
- ☐ 平和・人権
- ☒ 環境
- ☐ 気候変動
- ☐ 生物多様性
- ☐ エネルギー
- ☐ 防災
- ☐ 食育
- ☒ 伝統文化
- ☒ そのほか（ふるさと教育）

3. 活動内容

奥田北小学校

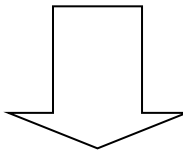
(1) 1年間の主な活動内容

各学年でESDカレンダー（資料1）を作成し、それに基づいて計画的に行っている。

3 学期には年間の活動について発表する ESD 発表会を設け、保護者にも取組について発表している。また、取組について各学年でまとめ（資料 2）、掲示することで、子供たちが次年度の見通しをもてるようにしたり、取組に生かしたりできるようにしている。

また、今年度は6/27（木）に松本謙一先生を講師に招きESD 授業研究発表会を行い、ESD の授業についての研修を深めた。

今年度の6年生のESDカレンダー(資料1)

[illegible]

昨年度の 6 年生の ESD のまとめ(資料 2)

6年・総合的な学習の時間
「共に生きる」って何だろう

55時間 児童 60名
指導者 1組担任 竹島 幸雄・糸谷 麻
2組担任 長田 拓郎

1 実践の概要

「共に生きる」というテーマから、一人一人が、今生きている社会を見つめたり未来の自分が生きている社会を想像したりする中で、どのような困難を抱えている人があるのか、また、どんな仕事が生産を支えているのかといった視点に立って、調べ学習を進めた。

共通の知識として、カンボジアでユニセフの活動に協力してこられた高木要志男氏を講師に迎え、講演をしていただいた。

学習のまとめとして、感じたことや調べて考えたこと、自分たちの力で取り組んだこと等、それぞれが資料を提示しながら発表する場を設けた。

2 実践の経過

去年の6年生は、世界の貧困や紛争などについて調べていた。

【テーマ提示】○ 「共に生きる」相手は、自分にとって、だれか。
○ 身の回りには、どんな人がいるのだろうか。

「共に生きる」相手を探そう

世界の国々では、どんな人たちが暮らしているのだろうか。

身近にも、困って
いたり助けが必要
だったりする人もい
るのではないかな。

たり暮らしを支えたりしているのだろう。

【調べ学習支援】○ 参考図書、参考ホームページの紹介。

共に生きる」相手のことを知ろう

世界では、5歳未満で死んでしまう子供もたくさんいるんだな。自分たちと同じ大切な命なのに、

カンボジアの現状から考えよう

い状況だった。自分たちの毎日とは、かけ離れた暮らしをする子供たちもいるんだ。

鹿島堀にはがきを集めることだ。い／＼

らか助けになることが分かった。自分たちも集めたいな。

你公的「林樹生」來了，上車與你相

手には、何ができるだろうか。

【調べ学習】○ 取組例の紹介や実践に向けた活動へのアドバイス。
支援) ○ 外部との連携 (北陸大学田中教授、インドネシア教育振興会窪木代表、
関日本海開発、日本ユネスコ協会富山支部高木氏)。

「共に生きる」自分に何ができるのか、考えて実践しよう

全校みんなへ呼びかけて、文房具を集めました。インドネシア教育振興会の方を通じて、現地の小学校へ届けようことができました。

世界寺子屋活動に参加しよう、書き出しがきの回収を呼びかけました。

毎日の放送で呼びかけたお

「世界の子どもにワクチンを日本委員会」の活動に参加し、ペットボトルキャップの回収に協力してもらいました。担任の先生に、石川県の美日本海開港まで運んでもらいました。

身近な社会をよりよくしようと、自作ポスターを公民館に掲示してもらいました。

命を救う活動の助けになったことは、うれしかったです。これからも、ボランティア活動に参加したいです。

自分の生きる社会に対して、自分から働きかけるのは、いいことだと思いました。

学習をまとめよう

【発表に向けた支援】 ○ 年間の活動をふり返り、これまでに感じた問題意識や、それぞれが調べた実践したりした中で考えたことを伝えられるよう、それぞれに合った発表の方法をアドバイスする。

○ 個人の追究を大切にするが、必要に応じて発表グループを編成する。

取り組んだことを発表しよう（グループ発表１３組、個人発表１１組）

自分たちの考えたことや取り組んだこと、問題だと思っていることなどが、正しく伝わるように、スライドと発表原稿の言葉を何度も見直しました。誤解のない表現になるよう、注意しました。

3 実践の成果

- ・ 大きなテーマから生まれた一人一人の問題意識を大切にすることで、課題解決のための調べ学習や実践に、自主的に取り組むことができた。
- ・ 世界には、自分たちとは大きく異なる生活環境のもとで暮らしている人々がいることを知り、自らの生き方を見つけるきっかけとなった。

4 残された課題

- ・ 一人一人の課題解決の過程において、学習の深まりに差が生まれるため、支援の工夫が必要である。
- ・ 多岐にわたる調べ学習や実践活動に対する指導者の支援が十分に行き届くような工夫が必要である。

① 1年生 生活科「なかよしいっぱい1年生」

○ 活動内容

年間を通して、学校や人、自然となかよくなる活動に取り組んだ。「学校となかよし」では、上級生や職員と交流した。「自然となかよし」では、校庭や公園に赴き季節の変化を体で感じることができた。また、アサガオを育てる活動では、成長する様子を観察・記録する活動を通して、命をつないでいく自然の不思議さを感じることができた。



○ 実践の成果

体験活動を取り入れることで、子供たちは、五感を使いながら自然や人と関わり、生き物の命を大切にする気持ちや接し方、相手に対しての思いやりの心などを育てていくことができた。

四季を通して、校庭や地域の公園での活動や、遠足で魚津総合公園での秋さがしの活動を計画し、実践することで、季節による自然の変化や場所による違い、共通点などを感じ、自然に思い切り楽しむことができた。

② 2年生 生活科「大すき！なかよし！町たんけん」

○ 活動内容

奥田北校区のすてきな場所やすてきな人を見付ける学習を行った。校区の気になっているところを知るために、自分で出かけたり、2年生全員で出かけて調べたりした。自分の目で見たり確かめたり調べたりすることを通して、自分の生活とのつながりや地域の方の思いに気付き、今まで知らなかった校区のよさを発見することができた。



○ 実践の成果

自分の目で確かめたりインタビューしたりすることを通して、校区の方やお店の方の願いを知ることができ、校区のものや建物だけでなく校区の人へ目を向けることができた。

校区に実際に出かけて調べたり調べたことを互いに交流したりすることで、これまで気付かずだった校区のよさや地域の方々の思いに気付くことができた。

③ 3年生 総合的な学習の時間「笑顔いっぱい大作戦」

○ 活動内容

高齢者の方々の気持ちや思い、障害者についての問題点を知り、自分にできることを考え、互いに支え合い理解しようという心を育てていくことを目標に学習を進めた。認知症サポーター養成講座や高齢者疑似体験、手話講座では、高齢者や障害者の方に対して様々な接し方や対応の仕方があることを学んだ。学んだことを実践する場として、校区内及び隣接地区にある「あすなろの郷」の入居者や「富山県聴覚総合支援学校」の児童と交流した。



○ 実践の成果

お年寄り講座や高齢者疑似体験を通して、年をとると心や体が次第に変化していくことを体験的に学ぶことができた。

聴覚総合支援学校の友達と交流という目当てをもつことで、「手話で伝えよう」という課題をもち、インターネットや本で手話を熱心に調べることができた。

「あすなろの郷」のお年寄りや聴覚総合支援学校の友達が「笑顔いっぱい」になることを目指して取り組み、相手の立場になって考える態度や、相手を思いやる気持ちを考えることができた。

④ 4年生 総合的な学習の時間「発見！発信！わたしたちの町の宝物」

○ 活動内容

「わたしたちの町の宝物」について考えたり見つめたりすることで、自分たちの住んでいる地域を大切にしようという愛着心を育むことを目標に学習を進めた。富岩運河や中島閘門等について詳しく教えていただく際には、カナル水辺倶楽部の方々に協力していただいた。

○ 実践の成果

体験活動や地域の方々に直接教えていただく機会があることで、興味をもって学習に取り組むことができた。

自分たちの町にある「宝物」について詳しく知ること、誇りに感じ、これからも大切にしていこうとする気持ちを育むことができた。

学習発表会や学習参観などで、学習してきたことを伝えるという目的をもつことで、これまでの学習を振り返ったり、分かったことをまとめたりする活動に主体的に取り組むことができた。

⑤ 5年生 総合的な学習の時間「米作りからわたしたちのくらしを見つめよう」

○ 活動内容

校区の学校田「ひまわり農園」での米作り活動を通して、農業に携わる人々の苦労や知恵について知り、わたしたちの「食」を見つめることを目標に学習を進めた。11月には、活動に協力していただいた地域の方々に感謝の気持ちを伝えるために、米作り体験で学んだことを基にしたスライドショーや劇、替え歌を発表した。



○ 実践の成果

米作り体験を通して、米作りの喜びや大変さ、昔の人の苦労や知恵を実感することができた。

専門的な知識や経験をもつ地域の方々との交流活動は、学校だけではできない貴重な学習の場となった。地域の方々への感謝の気持ち、奥田北校区の一員としての自覚、愛着心を育むことができた。

⑥ 6年生の取組 「『共に生きる』って何だろう」

○ 活動内容

「共に生きる」というテーマから、一人一人が今生きている社会を見つめたり、未来の自分が生きる社会を想像したりする中で、どのような困難を抱えている人がいるのか、また、どんな仕事が生産を支えているのかといった視点に立って、調べ学習を進めた。共通の知識として、カンボジアでユニセフの活動に協力してこられた高木要志男氏を講師に迎え、講演をしていただいた。



○ 実践の成果

大きなテーマから生まれた一人一人の問題意識を大切にすることで、課題解決のための調べ学習や実践に自主的に取り組むことができた。

世界には、自分たちとは大きく異なる生活環境のもとで暮らしている人々がいることを知り、自らの生き方を見つめるきっかけとなった。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

☒ 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）

☐ 時間外活動の時間を使用

☐ ユネスコクラブの活動として実施

☐ その他（

）

平成30年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 南砺市立福野小学校 (※正式名称を記載)
種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☒ 小学校 ☐ 小中一貫^{※注1}
☐ 中学校 ☐ 中高一貫^{※注2} ☐ 高等学校
☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校
☐ 特別支援学校
☐ その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒939-1507

富山県南砺市二日町50

E-mail fukuno-es@tym.ed.jp

Website <http://www.fukuno-e.tym.ed.jp>

幼児児童生徒数 男子 320 名 女子 299 名 合計 619 名

幼児・児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

2. 報告期間

平成30年4月～平成31年3月

3. 活動内容

(1) 活動の概要

当校は、「主体的に学ぶ子供」をテーマとして、ESDを「人、もの、ことと関わりながら、主体的に問題を解決する子供の育成」と捉え、中でも進んで関わろうとする態度の育成を重点目標とした。

具体的には、国語科等教科と生活科、総合的な学習の時間を関連させながら、①地域の伝統工芸や歴史に係わる学習、②食文化に係わる学習、③国際理解に係わる活動等を行った。

① 地域の文化に係わる学習「未来につなぐ 50 周年記念プロジェクト」
(6年 総合的な学習の時間) 小学校創校 50 周年を迎えるに当たって、テーマを「未来につなぐ」とし、服の地域や福野小学校のよさを未来につなげたいという思いをもち、統合当時の様子や 50 年間の小学校の変遷について調べた。その際、自分達が住む福野地域についての学びが浅いことに気付いた。そこで、地域の方にゲストティーチャーとして来校していただき、話を聴いたり、現地に行って作業に参加させていただいたりした。

2 学期には、福野地域に昔から伝わる祭りや伝統芸能、歴史それらに関わる方に触れ、学んだことを 50 周年記念式典で地域の方に発表したり、5 年生に伝えたりした。絵本を作成し、地域の保育園や幼稚園で発表し、その後福野図書館に展示していただき、地域の方々にも手にとって楽しんでいただいた。

② 食に係わる学習「食を見つめ、未来へつなげよう」
(5年 総合的な学習の時間)

社会科「日本の農業」と関連させ、自分が「食」に対して不思議に思うことや疑問に感じたことをインターネットや本から調べる活動をした。「食」は、心や体が病気にならないためにはとても重要なものであるにもかかわらず、普段の生活で自分たちの食生活や食習慣を省みると、課題が山積していることに気付いた。そこで、自分たちだけでなく、周囲の大人も意識が低いことに課題意識をもち、何とかしたいと追究を続け、地域の人々に向けて発表したいという願いをもって活動を進めていった。そして、学習参観や地域の祭りに出かけ、食の重要性やよりよい食事の摂り方を発表した。地域の方に向けての発表会では、聞く相手を意識した発表を心がけ、積極的に地域の方に声をかける姿が見られた。さらに、冬休み以降の自分の生活にも生かそうとする姿が見られた。

③ 国際理解に係わる活動「リッチモンド小学校との交流」(全校)

アメリカ合衆国リッチモンド小学校児童が来校し、児童宅にホームステイをし、高学年を中心に、3日間、学校生活を共にした。一緒に学習したり、遊んだり、日本語や英語で会話をしたりすることを通して、異文化に直接触れ、日本とアメリカの生活や考え方の共通点や違いを感じることができた。また、国籍の違いを越えて共に活動することの楽しさも感じることもできた。



①創校 50 周年記念式典に参加



② 地域の祭り会場での
発表会



③アメリカの子供との交流

③ESD に取り組んでの主な成果と課題

昨年度も研究会を行い、県内外の大学の教授陣や他校の先生方に授業を見ていただいた。研究会当日は、これまでの学習を踏まえて、子供の思いや願いに沿って、地域の人々と関わる学習を見ていただいた。その後本校の研究の歩みを発表し、アンケートで評価、及び意見をいただく機会とした。事後研では、人・もの・ことと関わった観察対象児の学びについて協議した。地域と繰り返し関わる学習を通して、一人一人の子供が、地域のよさを見付けることができていることが、全国学力・学習状況調査の「地域の行事に積極的に参加しているか」「学校の学習が社会で役に立つと思うか」の質問への肯定的な回答率の高さに表れている。

しかし、課題としては、全教職員が ESD や SDGs を意識した教育実践を行うためには、年度始めの新しい組織で必要感や授業改善等の共通理解が必要不可欠である。

ユネスコスクール八年目の歩み

氷見市立朝日丘小学校

朝日丘小学校は、ユネスコスクールに承認されて八年目を迎えました。一年目、二年目は、主に社会科の学習にESD（持続発展教育）を位置付け、研究を進めてきました。三年目からは、「知る」「育む」「為す」を三つの柱に、生活科や総合的な学習の時間にESDに取り組んできました。

本年度は、ESDで育てたい子供像を明確にして様々な実践をすることで、子供たちがふるさとのよさに気付き、ふるさとを愛する心情を育んでいきたいと考えました。それらの中から、四学年の実践について紹介します。

〈実践事例〉 四学年 総合的な学習の時間

「守ろう 伝えよう わたしたちの宝物」

く日本の宝 世界の宝く

一 ESDとの関連

昨年度は、総合的な学習の時間に、地域の特色やよさについて学習しました。今年度は、命を、地域を、そして、地球を大切にし、それらを守っていかうとする気持ちを高めることをねらい、「守ろう 伝えよう 私たちの宝物く日本の宝 世界の宝く」を学習テーマに掲げました。地域、日本、世界の「人」「もの」「こと」に目を向け、自分たちが宝と考えるものは何か、四年生一人一人が自分の考えをもち、調べ活動を行いました。また、自分たちが調べたことや実行したことを周りの人に

知ってもらうことで、私たちが住む地球の宝物を大切に守っていかうという思いを広げたいと考えました。

二 実際の活動の様子

三年生の総合的な学習の時間では、「氷見の宝物は何か」について考え、インターネット等で調べ活動を行いました。その中で挙げたものには、「ハンドボール」「定置網」「氷見の寒ブリ」等がありました。自分たちにとって身近すぎて、そのよさやすばらしさにあまり目が向いていなかった子供たちでしたが、調べ活動を通して、そこに関わった人々の願いや苦勞、努力に触れ、ふるさと氷見に対する興味・関心を高めるとともに、「氷見っていいな」と、氷見への愛着がこもった言葉が聞かれるようになりました。

四年生の総合的な学習の時間では、一学期に「二分の一人式」に参加し、氷見市立博物館を見学しました。氷見市に伝わる漁業の歴史や獅子舞等の地域の祭りの特徴等、子供たちにとっては、知らないことが多くあり、ふるさとに対する興味・関心をさらに高めることができました。

二学期には、「氷見市だけではなく、自分たちの国、日本の宝物についても知りたい」という思いから、日本の宝物について考え、調べることにしました。子供たちからは、日本の宝物として、「昔から伝わる遊び」「歴史的建造物」「伝統的な食べ物」等が挙がり、一人一人が自分の考えに合わせて、図書室の本やインターネット等で調べ学習を行いました。

〈立山連峰〉

本校から見える立山連峰が好きなA児は、立山の自然やその

地域に住む生き物が日本の宝であると考えました。調べていくうちに、立山連峰は季節ごとに様々な見え方をして、とても魅力的だということが分かりました。A児は、六年生になったときの立山登山をとっても楽しみにしていて、もっと立山の魅力について知りたいという思いをもつことができました。

〈伝統的な遊び「こま」〉

B児は、日本の伝統的な遊びの「こま」を日本の宝として考えました。こまが日本に伝わってきた歴史や、現在のこまに至るまでにはどのような変化があったかについてインターネットで調べました。この学習を通して、こまがずっと昔からある古いおもちゃだと初めて知ることができ、伝統的な遊び道具をこれからも大切にしたいという思いをもちました。

〈歴史的建造物〉

歴史が好きなC児は、名古屋城や正倉院等の歴史的な建造物について調べました。昔は、工事をするための重機がなかったことを考え、昔の人たちの苦勞を知ることができました。そして、「このような建造物が、現在までずっと守られてきたことから、人々の日の歴史を大切に作る気持ちを感じられます。」という感想をもちました。

一人一人の学習の成果は、タブレット端末のアプリケーション



＜歴史的な建造物＞



＜日本の伝統的な遊び道具「こま」＞

を使いスライドにまとめて学習参観で発表しました。自分たちが考えた「日本の宝物」を友達や保護者に伝えることができ、日本のすばらしさに対する思いを新たにしました。

引き続き、子供たちは、世界の「人」「もの」「こと」に目を向けて、「世界の宝物」について調べ学習を進めました。これまでの取組を生かし、自信をもって課題解決に向かう姿が見られました。どの子供も、自分たちの知らなかったことをたくさん発見でき、とても楽しそうでした。以下は、子供たちが調べた「世界の宝物」についての発表の一部です。日本と比べて考えることで、気づきにより一層の深まりがみられました。

〈世界の伝統的な食べ物〉

・カナダの伝統的な食べ物、カナダの国旗に描かれているメープルです。日本にはない食べ物で伝統的であることに驚きました。この活動を通して、自分の知らないことがたくさんあり、もっといろいろなことを調べてみたいと思いました。

・アメリカの伝統的な食べ物は、チェリーパイです。誕生日やクリスマス等に家族でよく食べられるそうです。スイーツが伝統的なんで、とても面白いと思いました。ペルーの伝統的な食べ物は、日本人もよく食べるじゃがいもです。種類が豊富で料理に合わせて使われています。調べていくと、じゃがいもは、元々ペルーで作られたものであると分かりました。

〈世界の伝統的な遊び〉

・カナダとフランスの伝統的な遊びには、おにごっこ等、日本と同じような遊びがあります。初めは、外国では日本と違う遊びをしているだろうと予想をしていたので、

驚きました。国は違っても、遊びに対する考え方が似ているのかなと思いました。自分たちが両親から遊びを教わったように、カナダやフランスでも親から子へと遊びを伝えてきたのかなと考えました。日本も外国も似ているところがあるんだなと気付きました。

子供たちは、これらの学習を通して感じたこと、考えたことを話し合いました。「日本には、まだまだ大切な宝物がたくさんある。日本のよさをもっと知りたい」「外国の文化も大切にしたい」「調べたことを発信することが大切だと思う」などの感想をもちました。日本や世界の宝物を地球に住む自分たちみんなの宝物と捉え、これからも守り伝えていきたいという思いを強くしました。そこで、日本や世界の宝物に対する自分たちの気付きや思いを少しでも多くの人に伝えたいと考え、一月に開催される「ESD 富山シンポジウム」に向けて、発表の準備を進めました。



＜カナダ、フランスの遊び＞



「ESD 富山シンポジウム」では、県内のユネスコスクールに加盟している学校が一同に集まって、自分たちの取組を紹介し合います。発表内容や自分たちの思いが伝わるように、分かりやすい資料を作成し、指示棒で指し示したり、動作を取り入



れたりするなど、発表の仕方を工夫しました。

当日は、各学校から、地域のよさの再発見や、地震が発生した時の行動の仕方、温暖化防止等、様々な取組が紹介されました。また、「富山市科学館」「富山市ファミリーパーク」といった団体の展示紹介も行われました。

参加した子供たちは、各学校の発表のよさから学ぶとともに、自分たちの取組を大勢の観客の前で、堂々と発表することができました。発表後の質疑応答では、「日本のどんな宝を大切にしたいですか。」という質問に対して、「こまやけん玉等、

昔から伝わる遊びをこれからも大切にしていきたいです。」と答えることができました。また、他校の参加児童から、「自分たちの地域にあるものが、今まで当たり前だと思っていたけれど、発表を聞いてこれからもっと大切にしていきたいという思いをもちました。一緒に伝統を守っていききたいなと思いました。」という感想をもらいました。

以上の学習を通して、子供たちは、自分たちの地域や国、そして地球を大切にしたいというとする意欲を高めることができました。この意欲を絶やすことなく、今後も地域や地球のよさを守り伝えようと積極的に働きかけていく子供たちの姿を期待します。



1 活動内容

【活動の概要】

本校では、「自立」と「共生」を教育目標の柱とし、全教育活動をESDの視点で見直し、教育課程に位置付けてESDの研究推進を図ってきた。実践においては、「ESDの視点に立った学習指導で重視する7つの能力・態度」から重点的な視点を選択し、授業を構成した。そして、ESDでの学びを基盤に、自分の考えを自分の言葉で表現し、それを周りの人に発信し、多様な考えを理解しようとするなど、学習意欲を高めるとともに、コミュニケーション能力を向上させ、よりよい社会をつくろうとする子どもの姿を期待し、実践した。

① 1年生活科「なかよしいっぱい」

生活科では、身の回りの人々や自然との関わりを意識できるようにし、そこからの気づきを大切にして学習を進めた。中でも、「つくってあそぼう なかよしのにわ」の学習では、本校の中庭を遊びの舞台とした。木の高さを利用したバスケットゲームや鉄棒の形を生かした家作り等ダイナミックな遊びを考え、友達と協力して活動した。また、みんなが楽しく遊ぶことができるようにしたいという願いを生かして、学級の枠を超えて学年で交流会を開くなど、生活を楽しく豊かにすることができた。

② 2年生活科「なかよしの輪を広げよう」

生活科では、1年生や校区の特別支援学校との交流を中心に学習した。1年生との交流では、年度当初の学校案内、5月の校外学習を通して、1年生のことを考えながら優しく接しようとする心が育った。さらに、12月の手作りおもちゃで遊ぶことを目的としたなかよし集会では、グループ毎に分かりやすく説明して、楽しんでもらおうと工夫する姿が見られた。特別支援学校との交流では、互いの学校に招待し合い、相手の様子を確かめながら関わろうとするなど、思いやりの心を行動に移すことの大切さに気付くことができた。

③ 3年総合的な学習の時間「成美の大好き新発見!」

町内の自慢をランキング形式で発表したり、校区のよいところを見つけて新聞にまとめたりして伝え合った。友達と紹介し合うことで、今まで気付かなかった校区のよさを再発見することができた。さらに、お世話になっている地域の方を招待して集会を開き、調べたことを発表したり、地域の方から校区の歴史を聞いたりすることを通して、より一層、地域への愛着を深めることができた。

④ 4年総合的な学習の時間「成美環境プロジェクト」

社会科の水やごみの学習を発展させ、総合的な学習の時間には、環境問題に取り組んだ。まず、一人一人の課題を基に調べたことを新聞にまとめ、その後、環境を守るためにできることを話し合った。そして、学習発表会では、地球温暖化の現状や原因、温暖化を止める方法や自分たちにできること等を保護者の方に伝えることができた。これらの活動を通して、自分たちで地域の環境を守っていききたいという意識を高めることができた。

⑤ 5年総合的な学習の時間「GO!GO!米ニュケーション」

社会科の食料生産に関する学習をきっかけとして、米作りへの関心を高め、学校田での田植え体験を通して、収穫までの手順や米作りの問題点等、一人一人が課題意識をもった。そこで、総合的な学習の時間に調べ学習を行い、分かったことや考えたことを学級で伝え合うとともに、地域の方を招待した感謝集会で学んだことを発表した。子供たちは、地域の方の米作りにかかる思いを知り、これからの食糧問題についても真剣に考えることができた。

⑥ 6年総合的な学習の時間「心の花を満開に～命を守るプロジェクト」

総合的な学習の時間には、防災をテーマとして学習に取り組んだ。火災や地震等の災害に応じた避難の仕方や気を付けるポイントを調べ、各学級に伝えた。また、避難訓練後の反省点を基に防災会議を開き、改善点等、話し合ったことを全校に伝え、2回目の避難訓練に生かしてもらえるように呼びかけた。さらに、数年前から続いている東北への募金活動に取り組むなど、自分たちにできることを考え、計画し、実行する力が育った。

2 平成31年度の活動計画

- ・各教科・領域等を関連付けて、全教育活動を通してESDを推進する。
- ・各学年毎にテーマを決め、ESDカレンダーを作成し、年間を通して実践する。
- ・地域の「人・こと・もの」との関わりを大切にし、自分の生き方を考えながら、自分にできることを実践する学習活動を展開する。
- ・持続可能な開発目標（SDGs）を意識した重点目標を立て、教職員の共通の基に取り組む。

〔はじめに〕

本校は、金沢市の中心部旧市街地に位置し、平成28年4月より旧材木町小学校と旧味噌蔵町小学校が統合し兼六小学校として開校した。全校児童は432名、教職員は35名である。

校区には、金沢城公園や兼六園が含まれ四季の変化や素晴らしい景観を感じることができる。自然や歴史が残る卯辰山と浅野川の流れにも面しており、金沢の伝統文化や伝統工芸、それに携わる方々が今もたくさん残っている地域である。また、高齢者の方が多く住まれ郷土愛に満ち、公民館活動をはじめ地域の諸団体による子供たちの育成活動は盛んである。

今年度もユネスコスクールの認定を受け、環境や伝統・文化を主要テーマとして持続発展教育の実践に取り組んでいる。

大切にしたい ふるさと 受け継がれてきた 絆

1 ユネスコスクールとしての取組

3年 「わたしたちの心をつなぐ金沢の和菓子」～和菓子探検隊～

金沢は和菓子消費量が日本一であることを知り、「なぜ日本一なのか、金沢の和菓子のひみつを見つけよう」という学習課題を立てた。金沢に伝わる風習や季節の行事と和菓子について調べる中で、和菓子は茶道とともに発展してきたことを知った。そこで、校区にある7軒の和菓子屋を訪問し、直接職人さんやお店の方にインタビューをした。「和菓子のひみつ」をはっきりさせようと主体的に取り組む姿が見られた。

また、茶道や和菓子作り、抹茶碗作り等の体験を行った。和室での作法やお茶の頂き方などを知り、金沢ではお茶文化とともに和菓子文化が愛され、「おもてなしの心」が大切にされてきたことなどを学んだ。

その後、和菓子消費量が日本一であるにもかかわらず、和菓子消費量はこの10年間で減っていることを知り、大変驚き、和菓子のよさを知ってもらうことが大切と考えた。そこで、浅野川小学校の3年生と交流したり、和菓子屋さんのポスターを描いたり、和菓子パンフレットを作成し観光客や地域の方に紹介したりするなどの活動を行った。

子供たちは和菓子を身近なものとして捉え、金沢の和菓子文化を大切にしていきたいという思いを持つことができた。



4年 「加賀友禅 ～加賀友禅大使になろう～」

金沢の伝統工芸「加賀友禅」について、校区の友禅作家である新納さんから「下書き→下絵→糊置き→彩色→中埋め→水元」の工程を指導していただき、体験を通して、それぞれの工程で使う道具の名前、使い方、気をつけることなどを学び、作品を仕上げた。その後、5人の作家さんにインタビューし、加賀友禅を残していきたいという思いを知り、自分たちにもできないことがないかを考えた。

さらに、学んだことをジュニア加賀友禅大使として、観光客や保護者に向けて発信した。これらの学習を通して、加賀友禅のすばらしさを誇りに思い、大切にしていきたい気持ちを持つようになった。



5年 「浅野川とともに生きる」

5年生は、まず自分たちの校区にある身近な浅野川について自慢に思うことを挙げた。その中で、いろいろなイベントがあることや、伝統文化が関わっていることを自慢に思う一方、ごみが捨てられていることを心配する声があった。子供たちの間では、浅野川はきれいかきれいでないか意見が分かれた。その理由を話し合う中で、川の水の生き物調査と水質調査、ゴミ調べを行うことになった。

浅野川に生息する生き物調査では、川底や石に付着している生き物を採集して指標と比べたり、パックテストをして結果を分析したりした。科学的な調査の結果、浅野川の水はきれいという結果になったが、子供たちには身近な浅野川を自慢できる川にしたい思いがあり、「ゴミが落ちていたから完全にきれいではない」「きれいにして金沢の文化とともに自慢に思える川にしたい」と新たな課題が生まれた。それからは、クラスごとに「観光客発信」「地域発信」「浅野川沿線学校発信」に分かれて、浅野川の良さを伝えようと、自分たちができるゴミ拾い等を行った。

終末には、自分達はこれから浅野川をどんな川にしたいか、そのためにどんなことができるかを考え提案文を書いた。一人一人が浅野川と向き合い、地域の一人としてよりよい環境をつくっていこうという意識を持つことができた。



6年 「つなげよう 広げよう 荒子小学校との絆」

姉妹校の名古屋市立荒子小学校の児童が修学旅行に来る際に、金沢の魅力を伝えるという活動を行った。まずは5年生の時に見つけた魅力の一つである加賀宝生を県立能楽堂で発表し、伝統芸能を継承していくことの大切さに触れ、これは伝えるべき魅力であると気づいた。また、百万石まつりや前田利家、地域にある観光名所等を調べパンフレットにまとめた。さらに、金沢を訪れている国内外からの観光客が感じていることを直接インタビューし、生の声を調査した。自分たちが当たり前だと思っていた食のおいしさや風景の美しさが大きな魅力だということや、人の優しさや新幹線効果の大きさも新発見することができ、自分の校区や金沢を誇りに思う気持ちを強くすることができた。交流会当日は、兼六園や金沢城、尾張町、ひがし茶屋街、金沢21世紀美術館等を実際にガイドしながら魅力を伝えた。また交流後にも手紙を交わすなどしてここでの出会いを大切にしたいという思いを持つことができた。



2 ユネスコスクールとしての成果と課題

① 人と人とのつながりから、社会・自然・世界とのかかわりを深める

今年度もこれまでに引き続き、学年に応じた地域の町並みや文化、伝統 産業とかかわる体験活動を実施してきた。本校の総合学習では学年があがるにつれ地域に愛着や誇りを持つことができるようにしている。また、古くから受け継がれてきたものを支え守り続けてきた人たちや地域の人達とのかかわりの機会をこれまで以上に多く設け、思いや願い、環境を維持し守っていこうとする人たちの取組にもふれる学習をこれまで以上に大切にしたい。

② カリキュラム作成上の工夫

年間を通して課題設定→情報収集→整理・分析→まとめ・表現のサイクルを丁寧に繰り返してきた。情報収集では児童が自ら校区へ出かけ、校区のよさを十分に生かすことができた。またサイクルを繰り返すことで児童は表現して終わりではなく次にどうしたらよいかと課題意識をもつことができた。しかしながら、前年度とのつながりがなく、スタートが教師主導であるなどの課題も残った。年間通してではなく、前年度とのつながり、一つ上の学年からの活動要請などより主体的活動ができるような単元構成にしていく必要がある。

③ 発表の場の工夫

今年度は、発信・交流の場を各学年がそれぞれの活動内容に応じて、必要な時期に適した相手に対して行うことができた。対話力を向上させ、意見を聞いたり新たな情報を得たりする機会にしていきたい。

平成 30 年度ユネスコスクール年次報告書

◆報告期間： 平成 30 年 4 月～平成 31 年 11 月

1. 学校に関する基本情報

学校名 勝山市立平泉寺小学校 (※正式名称を記載)

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☒ 小学校 ☐ 小中一貫^{※注 1}

☐ 中学校 ☐ 中高一貫^{※注 2} ☐ 高等学校

☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校

☐ 特別支援学校

☐ その他（例：小中高一貫 _____）

※注 1 義務教育学校を含む ※注 2 中等教育学校を含む

所在地 〒 9 1 1 - 0 8 2 2

福井県勝山市平泉寺町平泉寺 1 6 4 - 1 2

E-mail (代表アドレス) heisenjisyo@edu.city.katsuyama.fukui.jp

※ご担当者ご異動後も連絡可能なメールアドレスのご記入を推奨しております。

Website http://heisenjisyo.mitelog.jp/

ユネスコスクール加盟年 2014 年

2. 活動内容

※ 記入にあたっては、留意事項を確認ください。

① 活動分野（複数選択可）

☒ 環境 ☐ エネルギー ☐ 防災 ☒ 生物多様性

☐ 気候変動 ☐ 国際理解 ☒ 世界遺産や地域遺産等

☐ 人権・平和 ☒ 健康・福祉 ☒ 食育

☒ 持続可能な生産と消費 ☐ 貧困 ☐ エコパーク^{※1}

☒ ジオパーク^{※2} ☐ グローバル・シチズンシップ教育 (GCED)^{※3}

☐ その他



② 活動の概要（800 字程度）

平泉寺小学校

当校は、「地域を知り、地域に愛着と誇りを持つ」を活動テーマとして、E S D を地域に根ざした学習活動を行い、地域の方々と交流を行う場と捉え、E S D の実践を通して郷土を愛する心を育てるとともに実践力の育成を目標とした。

具体的には、生活科、総合的な学習の時間、学校行事を柱に、①池ヶ原湿原の生態調査に係わる活動、②池ヶ原湿原の環境保全に係わる活動、③地域の方との交流を図る活動を行った。

① 池ヶ原湿原の生態調査に係わる活動

県自然保護センターの協力を得て、以下のような活動を行った。

5 月に、全校で池ヶ原を訪れ、生き物の採取・観察、植物の観察を行った。絶滅危惧種であるオオコオイムシやアカハライモリなどを捕まえることができ、今年度も貴重な生き物を守っていくことの大切さを再確認した。

3～6 年生は年間を通して数回、池ヶ原湿原の水質調査や絶滅危惧種に関する継続観察を続けている。

② 池ヶ原湿原の環境保全に係わる活動

1 1 月には、全校児童が池ヶ原湿原に生えるヨシの刈り取りを行った。家庭や地域の参加者もあり、環境保全の意識が高まっている。

③ 地域の方との交流を図る活動

本校で 6 0 年以上継続して行っている伝統行事の「フキとり」に、高齢者連合会の方々に協力いただいている。一緒に活動する中でフキのとり方、仕分けの仕方などを教えていただきながら児童との交流を深めている。

また、1 0 月に行った「学習発表会」では、E S D に関する学習の成果を発表するだけでなく、地域の方々を招待し、児童と交流する時間も設けている。

地域を知り、地域を大切に思う心の育成に努めている。

③ 平成 31 年度の活動計画（200～400 字程度）

池ヶ原湿原に関わる活動について、児童が主体的に取り組むことができるよう、県自然保護センターと連携しながら内容を充実させていきたい。

校区のジオパークのジオサイトについて、平泉寺白山神社、平泉寺六千坊など地域に密着した素材を取り上げ、市役所のジオパーク課や地域の方の協力を得ながら学習を進めていきたい。

また、これらの学習を地域や他のユネスコスクールに発信することに、さらに力を入れていきたい。

平成 30 年度ユネスコスクール年次報告書

◆報告期間： 平成 30 年 4 月～平成 30 年 11 月

1. 学校に関する基本情報

学校名 勝山市立成器南小学校 (※正式名称を記載)

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☒ 小学校 ☐ 小中一貫※注 1

☐ 中学校 ☐ 中高一貫※注 2 ☐ 高等学校

☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校

☐ 特別支援学校

☐ その他(例：小中高一貫)

※注 1 義務教育学校を含む ※注 2 中等教育学校を含む

所在地 〒911-0804

福井県勝山市元町 3 丁目 10-38

E-mail(代表アドレス) minamisyo@edu.city.katsuyama.fukui.jp

※ご担当者ご異動後も連絡可能なメールアドレスのご記入を推奨しております。

Website http://seikiminami.mitelog.jp/blog/

ユネスコスクール加盟年 2014 年



2. 活動内容

※ 記入にあたっては、留意事項を確認ください。

① 活動分野(複数選択可)

- ☒ 環境 ☐ エネルギー ☒ 防災 ☒ 生物多様性
☐ 気候変動 ☐ 国際理解 ☒ 世界遺産や地域遺産等
☐ 人権・平和 ☒ 健康・福祉 ☐ 食育
☐ 持続可能な生産と消費 ☐ 貧困 ☒ エコパーク※1
☒ ジオパーク※2 ☐ グローバル・シチズンシップ教育 (GCED)※3
☐ その他

② 活動の概要(800 字程度)

当校は、「地元を誇りに思う児童の育成」を学校理念(活動テーマ)として、ESDの実践を通して地域の人・もの・こととのつながりを尊重する態度の育成を目標とした。

具体的には、ふるさと学習を柱に①自然環境に係わる活動、②福祉に係わる教育、③地域の産業に係わる学習、④地域の伝統文化に係わる学習を行った。

①地域の自然・環境に係わる活動

【公園探検を中心にした地域学習】・地域のいくつかの公園を探検し、学習発表会で発表した。

【野菜を育てよう】・地域の方から、児童が育てている野菜の育て方を教えてもらったり、実際に畑に行き、さといも、じゃがいもの苗植えと収穫体験をしたりした。育てた野菜を調理し、パーティーを開いて、指導してくれた地域の農業グループの方々へ感謝の気持ちを伝えた。

【大師山登山】・5月に学校から見える「大師山」に登った。事前学習として講師の方から、ジオパークについての話を聞いたり、勝山にゆかりのある「泰澄大師」の話を聞いたりした。また、当日は登りながら植物や周りの景色を楽しみ、豊かな自然に親しんだ。

【ジオパークについての学習】・「野外恐竜博物館での発掘体験」「ジオパーク見学」に出かけた。自分たちの住む地域が地球の長い歴史を感じられる貴重な場所であると言うことに気づくとともに、地域の自然環境に対する関心を高めた。

②福祉・健康に係わる教育

【園児を笑顔にしよう】・校区内の保育園、幼稚園を訪問し、園児たちを楽しませる活動を計画し、実行した。園児の相手をするにあたって注意することを事前に保護者に聞いてこさせるなどして準備してきたが、実際にやってみて、手応えと共に課題や発見もたくさんあった

【お年寄りを笑顔にしよう】・近くの公民館の老人会のイベントを訪問し、お年寄りのみなさんを労い、楽しませる活動を計画し、実行した。お年寄りのみなさんと様々な活動をしながらかく楽しく会話できたことが大きな充実感につながった。

【学校のみんを笑顔にしよう】・一番身近な学校のみんを笑顔にするための活動を計画し、実行した。クリスマスシーズンだったので、児童玄関にクリスマスツリーを飾ったり、休み時間に校内の普段手の届かないところを掃除したりした。

【様々な立場の人とコミュニケーション】・社会福祉協議会の方を講師として、コミュニケーションについて学んだ。手話や災害ジェスチャーについての話も聞き体験した。さらに、校区に住む聴覚障害者の方をお招きし、手話で自己紹介し、事前に考えた質問に答えていただいた。普段の生活のことや趣味のこと、されると嬉しいこと等話していただいた。

・福井しあわせ元気国体大会で、勝山市で開催された知的障害者バスケットボールの試合を親子で観戦し、スポーツを楽しむ心に違いはないことを学んだ。

・校区内の老人ホーム、公民館の老人会を訪問した。それぞれの訪問先ごとに担当児童を決め、お年寄りとのふれあい活動を企画し、ゲームや肩もみなどをして楽しく交流した。

③地域の産業に係わる学習

【地域巡り】・勝山のお宝さがしとして、「平泉寺散策・まほろば」「ゆめおーれ勝山調べ学習」を行った。自分たちの住む町に1300年を超える歴史を持つ寺社があり、観光資源となっていることや、勝山市が繊維産業に支えられた町であったことを知り、地域に対する理解を深めた。

【勝山再発見】・ゆめおーれ勝山から講師を招き、蚕の生態や養蚕、繊維産業の歴史について説明を受けた。また、自分たちの手で蚕をたまごから育て、たくさんの繭を得ることができた。

④地域の伝統文化に係わる学習

【左義長まつり】・地域のお祭りである「左義長まつり」について調べ、左義長まつりの歴史や、そこに込められた想いに触れた。今まで気付かなかったお祭りを受け継いできた地域の方の願いに気づくことができた。

平成 31 年度の活動計画（200～400 字程度）

次年度も今年度の活動を踏襲、発展させたものを行う予定である。また、今年度よりもより発信に重きを置いた活動を行いたい。以下、それぞれの学年で行う予定の活動を挙げる。

【1、2年生】・地域の公園探検を中心にした地域学習

・地域の方西どうしていただきながら野菜を育てる。また、育てた野菜を調理し、指導してくれた地域の農業グループの方々へ感謝の気持ちを伝える。

【3年生】・大師山登山を通じてジオパークについて学び、勝山の豊かな自然に親しむ。

・「野外恐竜博物館」「ジオパークかつやま」を活用して、地域の自然環境に対する関心を高める。

・「平泉寺散策・まほろば」等を通じて地域に対する理解を深める。

【4年生】・校区内の保育園、幼稚園、老人ホーム等を訪問し、園児や老人を楽しませる活動を通じて様々な年代との交流と、計画立案能力を高める。

・手話や災害ジェスチャーについての話を聞き、体験する。

【5年生】・蚕の生態や養蚕について学び、自分たちの手で蚕をたまごから育てて地域の繊維産業の歴史を体験する。

【6年生】・1～5年生で学んだことを活用し、勝山市の魅力と現状を知った上で、自分たちの手で勝山を盛り上げる方法を探し、提案する。

※³地球市民教育、世界市民教育などとも称される

② 活動の概要（800 字程度）

成器西小学校

本校は、「かしこく やさしく たくましく」を学校理念として、ESD をコミュニケーション活動の中核と捉え、ESD の実践を通して発信する力の育成を目標とした。

具体的には、自主・共生・自律を柱に、①地域学習、②福祉・ボランティアに係わる学習、③食育に係わる学習、④国際理解に係わる学習を行った。

① 地域学習

勝山の伝統文化である「左義長祭り」に全校で取り組んだ。地域の保存会の方をゲストティーチャーに招き、太鼓の指導を受けた。また、学年に応じて祭りの由来やしきたりを学習した。1・2年生は、祭りを盛り上げる短冊作り、3年生は作り物（身近にあるものを使って、干支を表現する）、4年生は絵行燈、5年生は習字を製作し、祭りを盛り上げた。6年生は、篠笛と左義長太鼓のステージ発表を行った。全校で、左義長太鼓をたたき、地域の伝統行事に思いを募らせた。

また、3年生は「恐竜博物館」「ゆめおーれ勝山」などの施設や本町周辺の地域遺産について調査し、分かったことをまとめ、学習発表会で他学年や保護者に発信した。

② 福祉・ボランティアに係わる教育

4年生は、福祉・ボランティアとはどのようなものかと調べた後、次のような活動に取り組んだ。高齢者とのサロンを主催するために、シニア体験を行った。高齢者を理解した上で、サロンでは、事故に遭わないための劇や健康体操、ゲームを企画し、実施した。

これらの活動で分かったことをまとめ、学習発表会で他学年や保護者に発信した。

③ 食育に係わる学習

5年生は、「地域・食育」をテーマに地域の特産品を調べた。その中でも、米作り、若猪野メロン、雪室野菜にスポットを当てて、見学や体験学習を行った。米作りでは、田植えや稲刈り体験を行った。お世話になった方々を招いて、冬野菜を使って作った味噌汁や心を込めて鍋でいただいたご飯と一緒にいただいたり、作文や似顔絵をプレゼントしたりした。また、若猪野メロンや雪室野菜の見学も行った。

これらの活動で感じたこと、分かったことをまとめ、学習発表会で他学年や保護者に発信した。

④ 国際理解に係わる学習

6年生は、5年生までに調査してきた地域学習の成果を国際理解と結びつけて発信した。勝山のいいところを見つめ直し、「平泉寺」「繊維の町；ゆめおーれ勝山」について更に深く調査活動を行った。これまでの学習「左義長」「恐竜博物館」も加え、勝山PRパンフレットを作成し、修学旅行で外国の方に英語で勝山を紹介した。また、県外観光客にもPR活動を行い、勝山の魅力を発信した。

学習の成果を学習発表会で、他学年や保護者に発信した。

平成31年度の活動計画（200～400字程度）

本校では、次年度も「かしこく やさしく たくましく」を学校理念として、ESD をコミュニケーション活動の中核と捉え、ESD の実践を通して発信する力の育成を目標としている。

具体的には、自主・共生・自律を柱に、

①地域学習

②福祉・ボランティア学習

③食育に係わる学習

④国際理解に係わる学習

に、取り組む。ESD カレンダーや総合的な学習の時間の計画は、大きくは変わらないが児童の実態に応じて変化していくものとする。新たな外部人材の活用や他のユネスコスクールとの交流も考えていきたい。

平成 30 年度ユネスコスクール年次報告書

◆報告期間： 平成 30 年 4 月～平成 30 年 11 月

1. 学校に関する基本情報

学校名 勝山市立村岡小学校 (※正式名称を記載)

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☒ 小学校 ☐ 小中一貫※注 1

☐ 中学校 ☐ 中高一貫※注 2 ☐ 高等学校

☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校

☐ 特別支援学校

☐ その他（例：小中高一貫 _____）

※注 1 義務教育学校を含む ※注 2 中等教育学校を含む

所在地 〒 911-0035

福井県勝山市郡町2丁目9-1

E-mail (代表アドレス) murokosyo@edu.city.katsuyama.fukui.jp

※ご担当者ご異動後も連絡可能なメールアドレスのご記入を推奨しております。

Website _____

ユネスコスクール加盟年 2014 年



2. 活動内容

※ 記入にあたっては、留意事項を確認ください。

① 活動分野（複数選択可）

☒ 環境 ☐ エネルギー ☐ 防災

☐ 生物多様性

☐ 気候変動 ☐ 国際理解 ☒ 世界遺産や地域遺産等

☐ 人権・平和 ☒ 健康・福祉 ☐ 食育

☐ 持続可能な生産と消費 ☐ 貧困 ☐ エコパーク※1

☒ ジオパーク※2 ☐ グローバル・シチズンシップ教育 (GCED)※3

☐ その他活動の概要（800 字程度）

当校は、「人とつながり、自然とつながり、未来のふるさとを大切に行動できる ESD の推進」を活動テーマとして、ESD を、地域の一員として、地域を大切に思い行動できる力と捉えた。

ESD の実践を通し、活動の中で生まれる協働や対話によって学びを深め、地域で自分ができることを実行・発信しようとする態度の育成を目標とした。

具体的には、環境教育、福祉教育、ふるさと教育を柱に①地域の人との交流に係わる活動、②地域環境保全に係わる活動、③地域の福祉的環境に係わる活動、④地域の歴史の継承に係わる活動を行った。

① 地域の自然や人との交流に係わる活動

1 年生は、学校の周りに出かけ、様々な動植物と触れ合う活動を行った。生き物との触れ合いを通して、季節を感じたり命の尊さに気づいたりすることができた。

2年生では、春と秋に地域の町探検を行ったり、地域の施設を訪問したりして、自分の住む町について調べた。訪問先で地域の人々に、インタビューすることで、自分たちの生活がたくさんの人に支えられていることを実感することができた。

② 地域の環境保全に係わる活動

5年生では、地域に生息する希少生物についての問題を取り上げ、課題別グループに分かれ、課題追求を行った。また、JAの方や地域の方から米作りについて学び、地域の米作りの現状を学習するとともに、農業が環境に対して与えている影響について学習し、環境保全についても考えた。

6年生では、地元のNPO団体「小原ECOプロジェクト」の皆さんや福井県自然保護センター職員の方々のご指導のもと、校下にある希少植物のミチノクフクジュソウの保全活動を行った。開花観察会や下草刈り、看板づくりを行い、この活動は次の学年へと継承した。

③ 地域の福祉的環境に係わる活動

4年生では、社会福祉協議会の方から、福祉についての考え方を学んだり、福祉体験をしたりした。視覚障害の方から話を聞いたり、障害者スポーツ体験をしたりすることで、いろいろな立場から考える態度を育てることができた。

④ 地域の歴史の継承に係わる活動

3年生では、地域にある恐竜博物館について学習した。恐竜博物館へ行き、解説員の方からお話を聞いたり、そこで働く方々にインタビューをしたりした。その後、恐竜博物館を県内外の人にもっと知ってもらうために、恐竜博物館を紹介するチラシを作り地域のお店に置いてもらった。子ども達が自ら調べ発信することで、地域の自慢である恐竜博物館をこれからも大切にしようという意識が高められた。

② 平成31年度の活動計画（200～400字程度）

平成31年度も、環境教育、福祉教育、ふるさと教育を柱に活動を行っていく。

1年生では、学校の周辺に生息する動植物の観察、身近な自然を利用した遊びを体験する。

2年生では、自分達が住んでいる町の自然、社会、公共施設などについて調べたり、体験したりする。

3年生では、自分の住む地域に関心を持ち、地理的・歴史的なことを調べる。地域の方と交流し、地域の一員としての自覚を持たせたい。

4年生では、福祉教育を核とし、家庭・地域の方々との交流を深める。国際理解教育にも取り組み、多様な価値観についても学ぶ予定である。

5年生では、米づくり体験（田植え、稲の観察、稲刈り、脱穀等）と、ミチノクフクジュソウ保全活動を通して、地域の自然や環境を守るために自分にできることを考えていく。

6年生では、小原ECOプロジェクトや県の自然保護センターの方々と、ミチノクフクジュソウの保全作業や開花記録、観察会を行う。

平成 30 年度ユネスコスクール年次報告書

◆報告期間： 平成 30 年 4 月～平成 30 年 11 月

※ 報告書提出時点～平成 31 年 3 月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

◆「平成 30 年度ユネスコスクール年次報告書（pp 2～4）」まではユネスコスクール公式ウェブサイト（<http://www.unesco-school.mext.go.jp/schoolslist/annualreport3/>）上に転記・掲載ください。掲載方法については同サイトをご覧ください。

◆現在、各校ページ（「加盟校情報」）内にご記入いただいている内容は、加盟校情報の項目の改良にあたり 12 月 1 日時点で削除いたしますのでご了承ください。

1. 学校に関する基本情報

学校名 勝山市立三室小学校（※正式名称を記載）

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☒ 小学校 ☐ 小中一貫※注 1

☐ 中学校 ☐ 中高一貫※注 2 ☐ 高等学校

☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校

☐ 特別支援学校

☐ その他（例：小中高一貫）

※注 1 義務教育学校を含む ※注 2 中等教育学校を含む

所在地 〒911-0834

福井県勝山市大袋 40-67

E-mail（代表アドレス） mimurosy@edu.city.katsuyama.fukui.jp

※ご担当者ご異動後も連絡可能なメールアドレスのご記入を推奨しております。

Website http://mimuro.mitelog.jp/mimuro/

ユネスコスクール加盟年 2014 年



【セイタカアワダチソウの駆除作業】

2. 活動内容

※ 記入にあたっては、留意事項を確認ください。

① 活動分野（複数選択可）

☒ 環境 ☐ エネルギー ☒ 防災 ☒ 生物多様性

☐ 気候変動 ☐ 国際理解 ☒ 世界遺産や地域遺産等

☒ 人権・平和 ☒ 健康・福祉 ☒ 食育

☐ 持続可能な生産と消費 ☐ 貧困 ☐ エコパーク※1

☐ ジオパーク※2 ☐ グローバル・シチズンシップ教育（GCED）※3

☐ その他

② 活動の概要（800 字程度）

本校は、「自立の根っこを育てる」を学校教育目標として、E S D を子どもたちの豊かでたくましい心と体を育む教育と捉え、E S D の実践を通して、郷土とその自然環境を愛し、地域の人々と協力して、地域の特色を守ったり活性化したりする活動に積極的に参加していこうとする子どもの育成を目標とした。

具体的には、環境学習、福祉・人権を考える活動、ふるさと学習を柱に、①自然とふれあって考える学習、②環境問題を自分の問題として捉える活動、③多様な人々との共存を考える人権・福祉教育、④地域の行事に参加する活動を行った。

① 自然とふれあって考える学習

低学年を中心に学校の周りの生き物探しをした。その生き物を観察したり、飼育したりする学習をした。中学年ではセイタカアワダチソウを駆除し、外来種と在来種について調べ、学習発表会で発表した。高学年では郷土料理の研究を進め、学校農園で栽培した大豆を原料にきな粉を作り、そのきな粉を使った古代米のおはぎを作って振る舞った。また、全校で学校農園で野菜を育てたり、カンタケを栽培したりした。野菜は、自分たちで調理していただいたり、家庭に持ち帰ったりした。

② 環境問題を自分の問題として捉える活動

遅羽町のクリーンアップ大作戦に多くの児童が参加した。予想以上に多くのゴミが捨てられていることを学んだ。また地域の方はもちろん、地域の工場の従業員のみんなが協力することで、きれいな環境が保たれていることに改めて気づくことができた。また、年に2回、地域の人たちの協力を得て行っている資源回収に子どもたちも参加しており、再生、再利用できる資源ゴミの多さを再認識した。

③ 多様な人々との共存を考える人権・福祉教育

児童会の活動としてエコキャップやアルミ缶を集め、地域の社会福祉協議会に贈り、車椅子の購入等に役立てていただいている。ハート体験クラブでは、車椅子体験、アイマスク体験、育児体験などの体験活動を行っている。どの児童も体験できるように、クラブ活動に参加する3年間のどこかで必ず1度は、ハート体験クラブに所属することになっている。また、12月の人権週間に合わせて、人権擁護委員会の方に来ていただき、いじめを含めた人権の話の聞き、思いやりの心を持つ大切さを学んだ。

④ 地域の行事に参加する活動

毎年、全校で遅羽町敬老会や三室まつり、町民運動会に参加している。合唱などの発表、作品の展示参加だけでなく、お年寄りへのメッセージのプレゼント作りや餅の袋詰めなどの手伝いもしている。また、地域の方から郷土の踊りを教えていただき、三室まつりでは、地域住民の輪に入って踊っている。今年度は、高学年が「ふるさとの山」の活動の一環として、三室山を人の集まる山にするためにさまざまな提案を地域の協議会に提案した。

③ 平成31年度の活動計画（200～400字程度）

1 自然とふれあって考える学習

全校 : 野菜の栽培活動、カンタケの栽培学習を通して

1、2年生 : 遅羽町探検、生き物の飼育活動を通して

2 環境問題を考える活動

全校 : 外来種植物の駆除活動から考える

高学年 : クリーンアップ大作戦参加から考える

: 資源回収から考える

3 多様な人々との共存を考える人権・福祉教育

高学年(クラブ) : アイマスク体験活動等を通じた福祉・人権教育

4 地域の行事参加を通して、自分たちのふるさとについて考える学習

原始運動会 : 三室縄文遺跡とのつながりと伝統

遅羽町敬老会、三室まつり、町民運動会

: 伝統、町おこし等、地域の一員として考える

平成 30 年度ユネスコスクール年次報告書

◆報告期間： 平成 30 年 4 月～平成 30 年 11 月

※ 報告書提出時点～平成 31 年 3 月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

◆「平成 30 年度ユネスコスクール年次報告書（pp 2～4）」まではユネスコスクール公式ウェブサイト（<http://www.unesco-school.mext.go.jp/schoolslist/annualreport3/>）上に転記・掲載ください。掲載方法については同サイトをご覧ください。

◆現在、各校ページ（「加盟校情報」）内にご記入いただいている内容は、加盟校情報の項目の改良にあたり 12 月 1 日時点で削除いたしますのでご了承ください。

1. 学校に関する基本情報

学校名 勝山市立荒土小学校（※正式名称を記載）

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☒ 小学校 ☐ 小中一貫※注 1

☐ 中学校 ☐ 中高一貫※注 2 ☐ 高等学校

☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校

☐ 特別支援学校

☐ その他（例：小中高一貫）

※注 1 義務教育学校を含む ※注 2 中等教育学校を含む

所在地 〒911-0045

福井県勝山市荒土町伊波 2-28

E-mail（代表アドレス） aradosyo@edu.city.katsuyama.fukui.jp

※ご担当者ご異動後も連絡可能なメールアドレスのご記入を推奨しております。

Website _____

ユネスコスクール加盟年 2014 年



2. 活動内容

※ 記入にあたっては、留意事項を確認ください。

① 活動分野（複数選択可）

☒ 環境 ☐ エネルギー ☐ 防災 ☐ 生物多様性

☐ 気候変動 ☐ 国際理解 ☐ 世界遺産や地域遺産等

☒ 人権・平和 ☒ 健康・福祉 ☒ 食育

☒ 持続可能な生産と消費 ☐ 貧困 ☐ エコパーク※1

☒ ジオパーク※2 ☐ グローバル・シチズンシップ教育（GCED）※3

☐ その他

※1 生態系の保全と持続可能な利活用の調和と目的とした、ユネスコの事業。生物圏保存地域（ユネスコエコパーク）

※2 地質学的遺産を保護し、持続可能な経済開発の場とすることを目指したユネスコの国際ネットワーク事業

※3 地球市民教育、世界市民教育などとも称される

② 活動の概要（800 字程度）

荒土小学校

本校は、「ふるさとを愛し、持続的に発展する社会を担う児童の育成」を学校教育目標として掲げており、E S D の実践を通して子どもたちのコミュニケーション力や発信力の育成や地域活動に積極的に参加することによる心の育成を目標としている。

低学年では生活科、中学年、高学年では総合的な学習の時間を柱にして①環境や自然に係わる取組、②ふるさとや文化に係わる取組、③人とのつながりに係わる取組を中心に行った。

①環境に係わる取組

低学年では、一年を通して変化する荒土町の自然（生き物、植物）について触れ合う活動を行った。その中の一環で、5月に地域の漁協の方と連携して、稚鮎の放流を行っている。地域を流れる川にも命がある生き物がおり、それらを大切にしなければいけないと考えるきっかけになっている。

中学年では、地域を流れる皿川の生き物調査と川の清掃を行った。生き物調査では、講師を招き、川に生きる生物を教えていただいた。きれいな川にしか生息しない生き物も見られ、子どもたちが地域の環境保全を積極的に行いたいという意欲につながっていた。

高学年では、理科の大地のつくりの学習にあわせ、勝山市のジオパークまちづくり課の方を招き、恐竜が多く発掘される手取群層の説明をしていただいた。子どもたちにとって恐竜博物館は身近なところではあるが、実際に地層を見る機会はほとんどないので本物を見るいい体験となっていた。

②ふるさとや文化に係わる取組

1年生から3年生では、町探検を行い、自分たちが住む荒土町や勝山市のよさをたくさん発見することができた。

4年生では、地域のふるさとづくり協議会の方に協力していただき、炭づくりを行った。炭づくりでいらなくなった部分（炭のあし）を使って飾り付けをして、地域の文化祭で炭の活用法として紹介した。

5年生では、米作りを行った。田植え、稲刈り体験や自分たちが育てた米のネーミングや販売活動をした。これらの活動を通して米作りの苦労や販売の工夫について学ぶことができた。

6年生では、地域で作られている炭をもっと多くの人に広めるために、炭石けん作りを行った。広報課、予算課、開発課、デザイン課に分かれ、炭石けんの販売に向けて子どもたちが中心となって活動を進めることができた。

③人とのつながりに係わる取組

3年生では地域のふれあいサロンに参加し、お年寄りと交流を行った。新聞記事を使ったお年寄りとの交流では、子どもたちにとって新たに発見があったり、お年寄りからアドバイスをもらったりとても有意義な時間となっていた。

4年生では、目の見えない方を講師に招き、お話をしていただいた。また、点字学習についても行き、目が見えない人についての理解を深めた。

5、6年生では、地域の朝市や文化祭、年の市などにおいての販売活動を通して、地域の人とのつながりを持つことができた。はがき新聞を使って、自分たちの活動を地域に広めることもできた。

③ 平成 31 年度の活動計画（200～400 字程度）

来年度も引き続き、①環境や自然に係わる取組、②ふるさとや文化に係わる取組、③人とのつながりに係わる取組を中心に活動を進めていく予定である。

その中でも特に、低学年では、①自然に係わる活動、3年生は、③人とのつながりの活動を重点的に行う。また、4年生から6年生では②ふるさとに係わる活動を重点的に行う。

本校で例年行っている稚鮎の放流、ふれあいサロン、炭焼き体験、米作り体験と関連させながら、活動の充実を図りたい。

平成 30 年度ユネスコスクール年次報告書

◆報告期間： 平成 30 年 4 月～平成 30 年 11 月

1. 学校に関する基本情報

学校名 福井県勝山市立鹿谷小学校 (※正式名称を記載)

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☒ 小学校 ☐ 小中一貫※注 1

☐ 中学校 ☐ 中高一貫※注 2 ☐ 高等学校

☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校

☐ 特別支援学校

☐ その他（例：小中高一貫）

※注 1 義務教育学校を含む ※注 2 中等教育学校を含む

所在地 〒911-0843

福井県勝山市鹿谷町本郷34-1

E-mail(代表アドレス) sikatanisyo@edu.city.katsuyama.fukui.jp

※ご担当者ご異動後も連絡可能なメールアドレスのご記入を推奨しております。

Website _____

ユネスコスクール加盟年 2014 年

2. 活動内容

※ 記入にあたっては、留意事項を確認ください。

① 活動分野（複数選択可）

☒ 環境 ☐ エネルギー ☐ 防災

生物多様性

☐ 気候変動 ☐ 国際理解 ☐ 世界遺産や地域遺産等

☐ 人権・平和 ☒ 健康・福祉 ☐ 食育

☒ 持続可能な生産と消費 ☐ 貧困 ☐ エコパーク※1

☒ ジオパーク※2 ☐ グローバル・シチズンシップ教育 (GCED)※3

☐ その他



☐

② 活動の概要（800 字程度）

鹿谷小学校

本校は、「豊かな心を持ち、すすんで学ぶ、健康でたくましい児童の育成」を教育目標として、ESD を主に「環境教育」と「地域との連携」と捉え、ESD の実践を通して『どんな問題が発生しても、学んだことを活用し、自主的に解決案を考え、行動する「真の学力」と「生きる力」育成』を目標とした。

具体的には、「1 環境から学ぶ」「2 環境に気付く」「3 環境を理解する」を柱に、①セイタカアワダチソウ除去活動②米作りに係わる学習③「恐竜ひょうたん」に係わる学習④ホタルが育つ環境を守る活動を行った。

- ① **セイタカアワダチソウ除去活動** 9月21日（金）13:30～15:45 事前に5年生がセイタカアワダチソウの生息している場所を調査し、セイタカアワダチソウが多いところを地図に記入し決定した。除去活動は、全校を縦割り班に分けて行った。活動後、児童から「セイタカアワダチソウを減少させ自分たちが住んでいる鹿谷町のススキのある自然を守れてよかった。」「これからも鹿谷町にある日本らしい自然を大切にしていきたい。」などの感想を聞くことができた。同時期の調査結果を見ると昨年度よりさらに鹿谷町のセイタカアワダチソウが減少していることが分かった。
- ② **米作りに係わる教育** 社会科で日本の農業について学んだことを発展させ、学校横にある1aの学校田で毎年、本郷生産組合の協力を得て、米作り体験をしている。平成30年度は、5月16日（水）に田植えを、9月11日（火）に稲刈りを体験した。鹿谷町は「勝山市の米所」であり、この機会に5・6年の児童全員の手作業による田植えや稲刈り・脱穀の作業を体験した。収穫した米は、精米して日頃お世話になっている地域の方に鹿の子感謝祭でプレゼントしたり、児童全員が給食で食べたり、家庭科の調理実習で使ったりしている。
- ③ **「恐竜ひょうたん」に係わる学習** 鹿谷町づくり協議会の協力を得て、5年生が5月17日（水）10:20～11:20 恐竜ひょうたんの学習と種蒔き、6月14日（木）9:20～11:20 恐竜ひょうたんの植え替え、以降、夏休みも恐竜ひょうたんの観察と畑の水やりや草取り等の世話を続け、9月19日（水）に収穫した。その後、恐竜ひょうたんの種を取り乾燥させ、児童によって着色し模様を付け、インテリアとしての飾りを作った。恐竜ひょうたんの種蒔きから作品作りまで地域の人のお世話になり、交流を深めることができた。珍しい形のひょうたんを栽培していることで話題になっている。
- ④ **ホタルが育つ環境を守る活動** 1学期～2学期にかけて鹿谷町を流れる川や用水路、ビオトープを観察、調査を続け、「川の環境を守るためにどんなことが必要か」を考えた。6月9日（土）18:30～20:00に公民館主催の地区行事「鹿谷町ホタルまつり」に5年生が参加し、地区の人と共にホタルの生態を知りホタルを観察したり、ホタルが育つ環境を守る活動について学習したりした。

③ 平成31年度の活動計画（200～400 字程度）

平成31年度も「1 環境から学ぶ」「2 環境に気付く」「3 環境を理解する」を柱に、地域の方の協力を得て、①セイタカアワダチソウ除去活動②米作りに係わる学習③「恐竜ひょうたん」に係わる学習④ホタルが育つ環境を守る活動に継続して取り組んでいきたいと考えている。また、今年度の振り返りをもとにESDカレンダーを見直し、「福祉について」「食育について」等にも計画的にとりくんでいきたい。

平成 30 年度ユネスコスクール年次報告書

◆報告期間： 平成 30 年 4 月～平成 31 年 11 月

1. 学校に関する基本情報

学校名 勝山市立北郷小学校 (※正式名称を記載)

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☒ 小学校 ☐ 小中一貫※注 1

☐ 中学校 ☐ 中高一貫※注 2 ☐ 高等学校

☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校

☐ 特別支援学校

☐ その他 (例：小中高一貫)

※注 1 義務教育学校を含む ※注 2 中等教育学校を含む

所在地 〒 911-0054

福井県勝山市北郷町東野 13-25

E-mail (代表アドレス) kitagousyo@edu.city.katsuyama.fukui.jp

※ご担当者ご異動後も連絡可能なメールアドレスのご記入を推奨しております。

Website http://kitagou-es.mitelog.jp/

ユネスコスクール加盟年 5 年

2. 活動内容

※ 記入にあたっては、留意事項を確認ください。

① 活動分野 (複数選択可)

☒ 環境 ☐ エネルギー ☐ 防災 ☒ 生物多様性

☐ 気候変動 ☒ 国際理解 ☒ 世界遺産や地域遺産等

☒ 人権・平和 ☒ 健康・福祉 ☒ 食育

☐ 持続可能な生産と消費 ☐ 貧困 ☐ エコパーク※1

☐ ジオパーク※2 ☐ グローバル・シチズンシップ教育 (GCED)※3

☐ その他

※1 生態系の保全と持続可能な利活用の調和と目的とした、ユネスコの事業。生物圏保存地域 (ユネスコエコパーク)

※2 地質学的遺産を保護し、持続可能な経済開発の場とすることを目指したユネスコの国際ネットワーク事業

※3 地球市民教育、世界市民教育などとも称される

② 活動の概要 (800 字程度)

本校は、「自立の『ねっこ』を育てる」を教育目標として、ESDの実践を通して自分たちの手で自分たちの学びをつくる子を育成することを目標とした。

具体的には、「地域の良い場所や環境に自分たちが気づくこと、調べること」と「故郷の魅力を発信すること」の2つを柱に、①地域に係わる学習、②福祉に係わる学習、③環境に係わる学習、④将来の夢に係わる学習を行った。

① 地域に係わる学習

3年生は、「勝山のおたからさがし」というテーマで総合的な学習を進めた。その1つに、地元の方々と密接に連携した活動として「アユの体験学習」を行った。地元漁協の支援を受けた稚魚の放流・ふ化体験や試食、地域を流れる九頭竜川流域の水質調査を行った。活動は、県内水面総合センターの職員の方に指導・助言をいただきながら進めていった。活動内容については、学校や勝山市の環境フォーラムで発表を行った。

② 福祉に係わる学習

4年生は、「みんなを笑顔にするために」というテーマで総合的な学習を進めた。人と人との関わりを重視し、地域の高齢者団体や障がい者施設と連携しながら人を介した福祉交流を通して共生社会に向けた意欲付けを行った。国語科で学習する「点字」とも関連付けながら学習を進めた。

③ 環境に係わる学習

5年生は、「北郷町の魅力を探そう」をテーマの1つとして総合的な学習を進めた。校区内には、県の準絶滅危惧種に指定されている梅花藻が自生している。しかし、近年、ゴミやオオカナダモ（外来種）などにより自生が危ぶまれてきた。そこで、地域の環境保全に取り組むと共に、梅花藻の移植を行う予定でいたが、自生している川が用水路であるため、農繁期の時期と重なり実施できなかった。

④ 将来の夢に係わる学習

6年生は、「住環境を通して、北郷町の魅力を発見しよう」をテーマの1つとして総合的な学習を進めた。ふるさとにあった住環境を考えることを通して、地域の魅力を再確認したり、将来の自分の家族構成や生き方について考えたりした。5年生までの生活科や家庭科、総合的な学習の時間の学習も生かした内容になっている。自分たちが考えた「家」の立面図・平面図を描き、学習発表会で掲示した。

③ 平成31年度の活動計画（200～400字程度）

「自立の『ねっこ』を育てる」を教育目標として、E S Dの実践を通して自分たちの手で自分たちの学びをつくる子を育成することを目標とする。児童が協力しながら、自ら学び合い、思いを伝え合い、考えを深めていけるよう、身近なものを出発点にテーマを決めて、取り組んでいきたい。

特に次年度は「総合的な学習の時間」を中心に、各教科で身に付けた「見方・考え方」を横断的に活用できるよう学習過程を計画していく。新たなテーマに取り組むのではなく、これまで継続して取り組んできたものを発展させていく視点を大切に、積み重ねる中で、活動を深めていきたい。（265文字）

平成 30 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 勝山市立 勝山南部中学校 (※正式名称を記載)
種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫※注1
☒ 中学校 ☐ 中高一貫※注2 ☐ 高等学校
☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校
☐ 特別支援学校
☐ その他（例：小中高一貫 _____）
※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む
所在地 〒911-0817
福井県勝山市旭毛屋町 3401
E-mail nanbutyu@edu.city.katsuyama.fukui.jp
Website http://h28nambu.mitelog.jp/
幼児児童生徒数 男子 名 女子 名 合計 220 名
幼児・児童・生徒の年齢 12 歳～ 15 歳

2. 報告期間

平成 30 年 4 月～平成 31 年 3 月

3. 活動内容

(1) 活動の概要

地域への愛着と誇りを ESD カレンダーに基づいて、教科横断的に取り組んでいる。

- ・ ふるさと勝山について学ぶ学習（勝山の職場を知ろうなど）
- ・ 伝統文化に目を向けた学習（雅楽、郷土料理など）
- ・ 未来に目を向けた環境、エネルギー学習（淀川清掃、服のチカラプロジェクトなど）
- ・ 勝山に関連する作品作り（例：かっちゃんま通り、かっちゃんまみやげなど）
- ・ ESD を意識した学校行事。

（例：修学旅行・遠足をきっかけにして勝山について考える）

(2) 活動の詳細

① 活動内容

当校は、「自己を磨き、生き生きと活動する生徒の育成」を達成するために、今年度は「表現力の育成 ～主体的に活動できる生徒をめざして～」を研究主題に掲げている。教科の授業の中で学んだ内容を活用し、筋道を立てて話したり自分の伝えたいことを伝えたりする力や、道德の時間の中で自分が感じたことを適切な言葉で他者に伝える力を育成することをねらいとした。

i ふるさと勝山について学ぶ学習（勝山の職場を知ろうなど）



・勝山城見学，恐竜博物館見学，職場体験の発表。

勝山南部中学校

勝山城や恐竜博物館の見学を通して，勝山の観光の工夫について考えを深めることができた。また，勝山の働く現場を見学したり，職場体験をしたりして，「勝山には職がない」と考えていた生徒たちが，勝山にも多くの職場があることを知り，勝山を見直すことにつながった。

① ふるさと再発見

勝山の魅力を再発見することを目指し、グループ学習。

・ 三室山

九頭竜川の氾濫から遅羽地区を守るようにある、三室山。縄文土器出土地としても有名。また、平泉寺を攻撃する拠点となった地を訪れた

ii 伝統文化に学ぶ日本人の心

・ 地域の人材と連携して，雅楽・ジオパーク・郷土料理の学習。

地域の人と連携して、日本の伝統的な音楽を学習した。学習する中で，勝山に住んでいる大人の想いや願いを知ったり，伝統的な料理，音楽，特色ある地質を知ったりと，勝山の魅力を学習した。



iii 奥越の自然

・ 植物採集，雪室見学，ジオパーク学習，池ヶ原湿原でのヨシ刈り。

学校や家庭周辺の植物採集をした経験から，池ヶ原湿原に自生する植物の希少性を実感することができた。池ヶ原湿原のヨシ刈りでは，外来種の駆除や湿原の植生を守るために人間の活動（ヨシ狩りなど）が必要であることを知り，共生について考える機会となった。雪室見学では，雪を活用した貯蔵方法を学んだ。環境に優しく，地域の特性を生かした雪室。その雪室で甘みが増したダイコンを試食し，すばらしいと感じた。生徒たちは雪室をさらに発展させていきたいと振り返っていた。ジオパーク学習では，勝山市全体がジオパークとして認定されていること，平泉寺や恐竜博物館など，多数の場所がジオサイトとして勝山市の見どころとなっていることを学習した。生徒たちはこれらを大地の遺産として後世に伝えていきたいと感じることができた。



iv 勝山の魅力を発信する

勝山南部中学校

金沢、恐竜博物館、福井市駅前、東京都上野などで勝山のPR、アンケート調査。

各学年の遠足や修学旅行先で、地元勝山の魅力をPRした。発信活動をすることは発信することを見直し、深めることにつながった。

①修学旅行で発信

5月16日、修学旅行先の上野で勝山市の魅力についてPR活動を実施。勝山市のことについてPRすることで、自分たちの住む勝山を見直すことにつながった。また、外国の方とも話をする機会を持つことができた。



②遠足で発信

金沢と勝山を比べながら2年生は、金沢で勝山の魅力を発信。



v 委員会活動

①服のカプロジェクト

6月22日にユニクロより、講師を招いて、「服のカプロジェクト」について、講演会を実施。難民の子供たちの現状を知り、子供服を集めることを開始。



vi その他

①資源回収

8月5日、11月11日、PTA活動として資源回収を実施。生徒会活動や部



活動を維持していくために、保護者、地域と連携して資源回収を実施。生徒はリサイクルの大切さを実感し、保護者と地域の人に協力していただけることに感謝を感じる機会となった。



② SDG s を意識した保護者参観授業

SDG s である 17 の目標をカード化して、ダイヤモンドランキングを考える授業を展開した。保護者にも授業参加してもらい、グループ内討議において、多様な意見のぶつかり合いから、コミュニケーション能力の育成と

SDG s の内容理解を目指した。



平成30年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成30年4月～平成31年3月

1. 学校概要

学校名 勝山市立勝山中部中学校

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫教育
☒ 中学校 ☐ 中高一貫教育 ☐ 高等学校
☐ 教員養成 ☐ 技術/職業教育
☐ 特別支援学校 ☐ その他 ()

所在地 〒911-0035

福井県勝山市郡町1丁目3-34

E-mail tyubutyu@edu.city.katsuyama.fukui.jp

Website http://www3.fukui-c.ed.jp/~k-tyuubu/htdocs/?page_id=13

ユネスコスクール加盟年 2014年

2. 活動内容

① 活動分野(複数選択可)

- ☐ 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- ☐ 国際理解
- ☐ 世界遺産
- ☒ 平和・人権
- ☒ 環境
- ☐ 気候変動
- ☐ 生物多様性
- ☒ エネルギー
- ☐ 防災
- ☐ 食育
- ☐ 伝統文化
- ☒ そのほか (ふるさと)

② 活動の概要(800字程度)

(1) 1年間の主な活動内容について

本校は学校教育目標「他人を愛し 自分を愛し 故郷を愛す」のもと、全校ESDのテーマとして「私たちの手で、私たちの学校から、私たちの地域を変えよう」を掲げ、豊かな心の育成を目指してきた。本年度も、「環境」と「ふるさと」を学習の中心に置きESDを推進した。これらの学習を通して、ふるさとの環境を理解しその保全に努めようという意識を持たせ、ふるさとの良さを体験的に理解し、ふるさとに誇りをもち、自分たちのふるさとを将来に残していこうという意識を持った生徒の育成に取り組んだ。そして、持続可能な将来が実現できるような価値観を育成するとともに、行動の変革を促すように取り組んだ。全校で、テーマを「環境」と「ふるさと」に設定し、ES

Dカレンダーを踏まえ、勝山中部校区でできる ESD を中心に行った。

1. ふるさと学習

【各学年毎の取り組み】

年間を通じてふるさと勝山について理解を深め、発信する活動を行った。

1 年生 「大野市遠足」「六呂師宿泊体験」「ようこそ大先輩」



大野市街を散策し、ふるさと勝山との共通点や違いを見つけることで、勝山の良さや奥越のよさを発見した。学習したことをまとめ、学校祭では劇で発表した。奥越高原青少

年自然の家で宿泊体験学習を実施した。登山活動や野外炊爨などの活動を取り入れ、ふるさとの自然の尊さを体感できるようにし、ふるさとの自然の良さを壁新聞にまとめた。

「ようこそ大先輩」では、ふるさとに誇りを持ち活動することの大切さを実感することをねらいとし、戦争体験のある方を講師に招き、生き方や考え方を学んだ。



2 年生 「金沢遠足」「14 歳の挑戦」「立志式」

金沢市内を散策し、日本の伝統や文化を体験すると共に、ふるさと勝山と金沢を比較することで改めて勝山のよさについて考えた。遠足後、調べたことをまとめる新聞づくりを行い、学校祭では全校生徒に劇で発表した。

「14 歳の挑戦」では、地域の方々の協力の下、三日間にわたり職業体験をおこなった。自分達のふるさとにある職場を体験し、自分たちのふるさとや将来について考え、立志式で学んだことを発表した。

「立志式」では、福井の先人である橋本左内について調べ、左内が著した「啓発録」をもとに、自分自身が目指すべき理想像を三か条という形で色紙に記した。



3 年生

「修学旅行」「ふるさと福井の先人 100 人」

「修学旅行」では、人々との交流や調査・体験活動を通して、産業、歴史、文化についての理解を深め、学ぶことや働くこと、生きること、ふるさとの尊さについて学んだ。事前学習において、ふるさと勝山と大都会東京のそれぞれの良さなどについて調べ、修学旅行に臨んだ。修学旅行では、各グループでふるさと勝山を紹介する英文を、ジ

勝山中部中学校

エスチャーなどを交えながら外国人の方に伝える活動を行った。そして、東京について調べたことと実際の違いなどを級友とともに感じ取りながら、班別活動を行った。修学旅行後には、比較した結果やそれをもとに感じたことなどを修学旅行新聞にまとめた。学習したことは学校祭で劇にして発表した。

「ふるさと福井の先人 100 人」では、福井県が発行している本を元に、福井の先人について知り、先人の生き方と自分の生き方を比較して今後の自分の生き方について考える活動を行った。

2. 環境学習

地域環境の保全の方法を多様な視点から見つめ、広い視野で環境問題に関心を持たせ、環境に対する課題意識を育てる活動を行ってきた。

【各学年の取り組み】

1 年生

地域環境美化・調査活動では、地域の公園の清掃、草取りとゴミ収集を行った。また、遠足や宿泊体験を通し自然に触れ、今ある環境の素晴らしさと大切さを実感した。

2 年生

地域環境美化・調査活動で、校区内の公園の環境調査や整備を行った。

3 年生

学校の前を流れる浄土寺川清掃を中心とした「地域環境美化・調査活動」を40年以上継続してきている。今年度も3年生は浄土寺川の環境調査を行うと共に、川の清掃に取り組んだ。



○その他

・生徒会活動

8月には、学年の枠を超えて、生徒会が中心となり、各部活動にも呼びかけた。市内3中学校の生徒会が話し合い、地域の河川環境保全について連携し、アクションを起こそうということになり、市の行事「クリーンアップ九頭竜」への参加を計画した。夏休みにも関わらず多くの生徒が参加し、身近な環境を守っていこうという意識のさらなる向上が見受けられた。また、地域住民への大きなアピールにもつながった。

・資源回収

6月PTA主催、8月には生徒会が主催し、資源回収再利用活動を行った。資源の有効利用を図ることを目的とし、資源回収を通して3Rの学習とゴミの分別を実践することができた。

・教科での取り組み

教科でも環境に関心を持たせるような



工夫を取り入れた。例えば2年生の社会

科では「勝山市で一つ発電所を作るとしたら？」という課題を設定し、各発電のメリットやデメリット、勝山市の自然環境を考えながら自分自身で課題を解決していく活動を行った。

環境学習では、全学年を通じて、地域の環境の実態を知り、自分たちが何をすべきかを考え、自分たちが行動していくという学習の流れができてきた。これからも学校と家庭と地域が協力し環境保全に努めていきたい。

3. その他の取組

○道徳や教科・学活の時間等の取り組み（1・2・3年）

人権教育年間計画を作成し、各教科や道徳・学活の時間で人権教育に関する学習活動を行った。その中でも、道徳の授業では、各クラスの実態に応じた題材を用いた授業を実践するよう呼びかけ、生徒が身近な他者の人権について考える機会を、多く取り入れるようにした。

○互いの良さを認め合う活動（ボランティア委員会）

12月の人権週間には、全校生徒が日頃からお世話になっている友だちや先輩、先生に感謝の気持ちを伝える「ありがとうメッセージ」を制作した。生徒たちは、メッセージを通して、日頃なかなか言えない気持ちを伝えることができた。メッセージを書いた生徒ももらった生徒も、大変嬉しそうであった。メッセージは生徒玄関前に掲示したことで、自分の良さや自分が認められていることに多くの生徒が気づくことができた。



たこ

③ 平成31年度の活動計画

今年度の取り組みとして行った「地域環境美化・調査活動」は40年以上前から続いている中部中学校の伝統的な取組であり、来年以降も良き伝統として継続していきたいと考える。また、ふるさと学習では、年間を通して各学年とも計画的に進めることができていたように思う。来年度も年間行事計画をもとに各学年でできる範囲で計画的に実行していきたい。

今年度の反省として、ESDについては担当教員のみが関わっており、他の教員に周知・研修する機会を設けられなかった点である。ESDの取組は総合的な学習の時間にとどまらず、各教科でも行うことができるものである。来年度も「環境」と「ふるさと」を1年間のテーマとして進めていきたいが、各教科でもそれらを題材とした授業を年間に1度行っていきたいと思う。そして、校内研修という形で来年度は現職の先生方にもESDの考え方や取組について伝える場を設けていきたいと思う。

平成30年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：平成30年4月～平成31年3月

1. 学校概要

学校名 勝山市立勝山北部中学校
種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☐ 小学校 ☐ 小中一貫教育
☒ 中学校 ☐ 中高一貫教育 ☐ 高等学校
☐ 教員養成 ☐ 技術/職業教育
☐ 特別支援学校 ☐ その他 ()
所在地 〒911-0035
福井県勝山市荒土町伊波21-2
E-mail hokubutyu@edu.city.katsuyama.fukui.jp
ユネスコスクール加盟年 2014年

2. 活動内容

本校は、「北中イノベーター～自らの変革に挑戦する生徒の育成～」を教育目標として、身近にある環境問題や人権問題等に自ら関わり、考え、持続可能な社会を構築していくのは自分たちであるという意識を持つことができる生徒が増え、そしてわがまち勝山の将来を担っていく人材が育つことをねらいとして、ESDを体験活動と発信の場と捉え、ESDの実践を通して持続可能な社会に興味関心をもち、行動することができる生徒の育成を目指した。具体的には、「北中まちづくりプロジェクト」と銘打ち、『勝山を美しく、元気に、有名に』というコンセプトのもと、環境保全、福祉、地域活性を柱に①環境保全に係わる活動、②地域に係わる活動、③福祉に係わる学習および活動を継続的に行っている。

①環境保全に係わる活動

<全校での川清掃>

今年度は、本校の近くを流れる九頭竜川の清掃を学年親子行事として、全校生徒と保護者で行った。生徒会執行部では、この川清掃を受け、地域に呼びかけるポスターを作成した。

<勝山市三中学校意見交流>

勝山市三中学校で毎年取り組んでいる地域の川清掃や美化活動をより活性化するために、遠隔システムを利用して、三中学校の代表生徒がテレビを通して意見交流を行った。それぞれの活動を知ることに加え、互いの考えを伝え合うことで自分たちでは気づかない新しい発見やアイデアが生まれた。三中学校合同で勝山市の行事である「クリーンアップ九頭竜」という川清掃ボランティアに参加しようということになり、実際にボランティア活動を行った。

②地域に係わる活動

<学校祭の体験活動で地域の達人に教わる>

本校の校下には、古くから伝わる伝統産業や現在行われている産業があり、それぞれに達人がいっぱいいる。身近にあり、これからの勝山に残したいことでもある。学校祭でそれらの有識者の方を講師にお招きし、生徒全員で体験活動を行った。5つのグループに分かれ、ミニ盆栽づくり体験、木工体験、鼻笛体験、縄リースづくり体験、抹茶体験を行った。

＜勝山市長になろう＞

勝山北部中学校

3年間を通し、ふるさと再発見学習を行ってきた。3年生の修学旅行で首都東京を訪れ、2年次の金沢遠足をもとに考えた勝山市活性化策を膨らませた。もし自分が勝山市長になったら、これからの勝山をどうしていくとよいかについて考え、プレゼン発表を行った。

＜地域に中学生のチカラを＞

これまで勝山PRグッズの販売体験および北中まちづくりプロジェクトのPR活動を校区内の町民文化祭で行った。本校で取り組んでいる環境保全活動について、グッズ販売での会話を通して紹介し、地域の方とのコミュニケーションを図ってきた。今後は昨年同様、勝山市の年中行事である歳の市や左義長まつりでも、市内外から訪れる人を対象にPR活動を行う予定である。また、市内を中心とする観光スポットにおいても、この活動を行うことを検討している。

③福祉に係わる学習および活動

＜認知症サポーター養成講座および福祉施設訪問＞

1学年が福祉施設を訪問するにあたり、勝山市地域包括支援センターと勝山市社会福祉協議会の協力のもと、厚生労働省が推進している「認知症サポーター養成講座」を受講した。校下の小学校区にそれぞれある福祉施設の特色を調べたり、入所者の介護レベルを電話で尋ねたりした上で、交流する内容を話しあって考えた。このプログラムのまとめとして、出身小学校の校区にある施設を訪問し、清掃活動とふれあい活動を行った。

③平成31年度の活動計画（200～400字程度）

平成31年度も「北中まちづくりプロジェクト」を中心に活動を展開していく予定である。

環境保全活動・福祉学習および活動・地域学習や活動すべて継続した活動を行う。

環境については、毎年行っている川清掃を続け、ただきれいにするだけでなく、自分たちの住む地域にある川を守るために市民に対して呼びかけを行っていくことを加えていきたい。また、市内3中学校の意見交流をもとに新たな活動を展開していく。

福祉については、高齢者や地区の特別支援学校との交流は引き続き行う。

地域学習や活動については、中学校3年間を通して、勝山市について詳しく学び、他地域と比較しながら、今後の勝山市はどうあるべきかについて勝山市に提言できるような場の設定をしていきたい。また、PR活動については、地域の行事に参加してPRすることはもちろん、新しいPRグッズの製作やPRする方法や場の工夫も考えていく予定である。

2019年8月8日

学校法人いづな学園グリーン・ヒルズ小学校

教諭：直江 鉄平・尾形 望

1 グリーン・ヒルズ小学校（担当者：尾形【080-1676-9223】）

本校は、長野市にある飯綱高原の豊かな自然の中で、「関係性を基盤に自律性を育む」という教育目標のもと、対話とプロジェクトを特徴とする私立の小学校です。

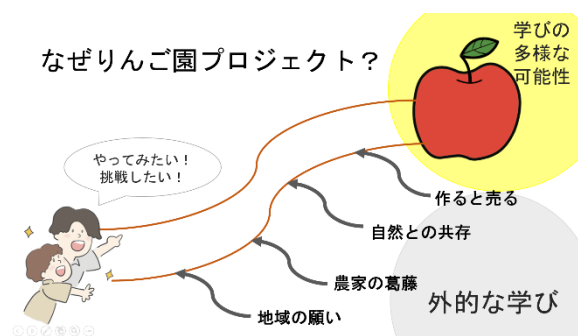
2 本校における ESD 活動の概要

【りんご園プロジェクト】

（1）活動の経緯と目標

○活動の経緯

2015 年度より、本校保護者から紹介されたりんご農家と出会い、りんご栽培に興味をもった子どもたちが栽培や収穫の体験をした。2017 年度から、豊かな自然体験と農業体験を通して、自ら考え、仲間と話し合い、社会とつながり、協力して挑戦していく子どもの姿を願い、小学校全体で年間通して行うプロジェクトを始めた。りんご畑を農家の方にお借りし、学校独自の自然体験・農業体験活動として、本校の教育活動に位置付けている。



○プロジェクトの活動の目標

- ①自然体験、農業体験を通して、自然と親しみ、自ら社会とつながることのできる子どもを育てる
- ②広い視野で自ら課題を見つけ、深く追究できる探究心と行動力のある子どもを育てる

（2）本年度の活動目標

活動目標	活動重点
①子どもたちがりんご園プロジェクトの活動に対して、自ら考え、自ら行動できるような仕組みを作る	・道具の管理場所を整理して子どもに示し、自ら準備できるようにする ・月間の見通しを盛り込んだ計画表を掲示する ・これまでの活動の記録を、いつでも見られるように掲示場所を整理し、活用する
②新たな仲間を迎え、認め合い、聴き合える関係性を作る	・「りんご会議」の場を最大限に生かし、1～6年生が一緒に話し合い、参加者意識を持てる場を設定・工夫する ・トーキングサークルを活用した継続的な活動の振り返りなどを通して、互いに聴き合い、がんばりを認め合える場づくりを継続する
③子どもたちの深い思考と追究を促すよう、支援の充実と環境の工夫をする	・「りんご学習」の深まりを目指し、学年や発達に応じた知識・思考・技能・探究の能力を育むテーマの教材研究と実践に取り組む

3 ESD に取り組みによる主な成果と課題

(1) 成果

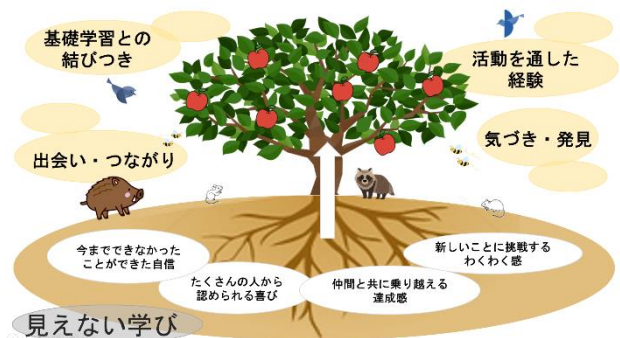
<プロジェクトの活動の目標①に関わって>

- ・地域の農家の方をはじめ、パティシエや広告代理店など、地域の人材としてのプロフェッショナルの方とつながってその仕事に触れることができた
- ・自分たちが苦勞して育てたりんごに対する愛着と誇りを持ち、販売までの一連の活動を体験して自己有用感が高まった
- ・一つのプロジェクトを小学生全員で行い、学年を越えて支え合う豊かな関係性を築くことができた

<プロジェクトの活動の目標②に関わって>

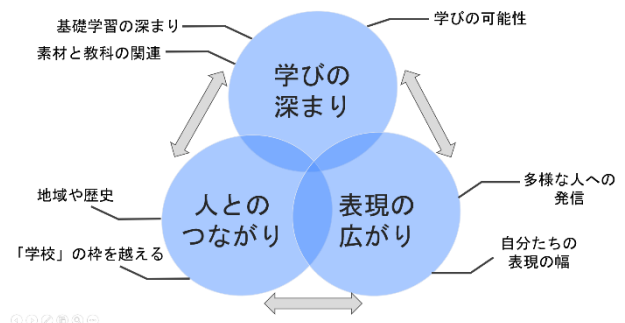
- ・「りんご」という素材からテーマを多岐に広げ、教科横断的な活動を1年間通して行うことができた
- ・継続的に活動をふり返ることを通して、自己評価の力、メタ認知能力の育成につなげることができた
- ・農作業や販売活動について、活動をより良くしようと意見を出して行動する子どもの態度を育むことができた

グリーン・ヒルズ小学校



(2) 課題

- ・年間指導計画の改善
- ・農作業の充実（保護者の力を借りて効率化）
- ・アドバイザー農家や近隣農家との連携の充実
- ・スタッフの研究（農業・その他体験活動・教科における授業）
- ・資金運用の効率化
- ・農作業用の備品の充実と管理の徹底
- ・活動と ESD との関連の明確化、他校の実践を学び、交流を通して本校の実践を向上させる



平成 30 年度ユネスコスクール年次報告書（途中経過）

1. 学校概要

学校名 山ノ内町立南小学校（※正式名称を記載）

種 別 ☐ 保育園・幼稚園 ☒ 小学校 ☐ 小中一貫※注1

☐ 中学校 ☐ 中高一貫※注2 ☐ 高等学校

☐ 教員養成大学 ☐ 専修学校、各種学校

☐ 特別支援学校

☐ その他（例：小中高一貫）

※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

所在地 〒381-0402

長野県下高井郡山ノ内町佐野 1181-1

E-mail y-minami@valley.ne.jp

Website http://www.town.yamanouchi.nagano.jp/kyoiku/minamisho.html

幼児児童生徒数 男子 52 名 女子 41 名 合計 93 名

幼児・児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

2. 報告期間

平成 30 年 4 月～平成 30 年 12 月

※報告書提出時点～平成 31 年 3 月末までの活動は、予定（見込み）として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

（1）活動の概要（800 字程度＋活動内容を表す写真数枚）

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

当校は、「素直に思いをかわし合うこと」「ズレから生じる課題」を研究テーマとして、E S D をこれまでの教育活動の再編成と捉えなおしと考え、E S D の実践を通して、子どもたちが、自らの思いを表出させ表現していく力の育成を目標とした。

具体的には、生活科や総合的な学習の時間を柱に、①ウサギとのくらしをつくる活動、②町名産のリンゴ作りと販売を体験する学習、③大豆にかかわる学習、④焼き物を通じた地域との交流や町への提案を進めようとしている。

① ウサギとのくらしをつくる学習（2 年）

2 年生は昨年からウサギとの生活を行っている。昨年特別支援学級の畑にウサギのふんを毎日まき、ふん、土、野菜、人間、動物の関係を「ぐるぐる」と表現した子どもたちは、今年は自分たちで畑を作り、そこにふんをまこうと考えていった。育てる野菜は、ウサギのえさにするために大根とニンジンに決めだしていった。実際に畑の活動をはじめると、「グルグル大根をつくる畑なんだから、うねもぐるぐる巻きにしよう」と語り、活動をすすめていった。途中にんじん畑に足跡があることをみつけた子どもたちは、「看板をつくろう」と言い出し活動を進めた。7 月のはじめには、大根の収穫を行うことができた。さらに 12 月には 9 月にまいた大根の収穫もした。

にんじん畑では間引きを行った。間引いたにんじんをうさぎにあげるとこちらは喜んで食べる。大根とニンジンでは飼っているウサギはニンジンが好みなのだとわかり、言葉を話さないうさぎのことを分かろうと活動している。

9月になると校内音楽会に向け、どんな発表をしたいかを考え始めた。すると、今年も「うさぎのゲンキとの生活を歌にして作りたい」ということになり、5つの曲を作り音楽会で全校児童や保護者に向けて発表をした。

② 町名産のリンゴ作りと販売を体験する学習（2年）

2年生は、学校の敷地内にあるリンゴ畑でリンゴ作りの体験を行っている。1学期にはリンゴの観察や摘花作業をおこなった。2学期には葉摘み、玉回し、収穫を行った。落ちているりんごを食べていた子どもたちは、そのおいしさを改めて感じ、たくさんの人にりんごを食べてもらいたいと願い、道の駅での販売を行った。するとりんごを購入した方から手紙が来て、子どもたちもその方に国語で学んだ「しかけカード」で返事を書くなどの活動に広がった。

③ 大豆にかかわる学習（3年 4年）

4年生では昨年に引き続き、大豆を通して、長野県や地域を知ること（信州みそや町内の豆腐屋さん、大豆を育てている家が見当たらないという現実などから）、さらに健康で元気な町づくりについて考えようとしている。昨年の経験も生かして、今年は一人一人が鉢で育てて「マイ大豆」を作っている。さらに畑では全員で大豆を育てているが、鳥に食べられてしまった。さらに虫も大量に発生してしまった。そこで、家の人に聞いたり、地域の人に聞いたりして鳥や虫の対策を進めていった。いくつかの案を教えてもらい、子どもたちはそれを実行し、鳥や虫から大豆を守っている。

昨年しこんだ味噌が少しずつできてきている。いつまで寝かせるかは確定していないが、この味噌も用いて、高齢化が進む町の現状を踏まえて、お年寄りもみんなが元気に過ごすための朝食を考えたいと願って活動を進めている。

3年生は「大豆の変身」をきっかけに大豆づくりを行ってきた。11月に給食で納豆が出されたことや、地域探検で納豆やさんを発見したことをきっかけに、12月に納豆づくりを行った。その納豆をおいしく食べてほしいと願った子どもたちは、各家庭の納豆料理を持ち寄り、一口に納豆といっても様々な方法で食べることができることに気がついていった。

④ 焼き物を通した地域とのつながり（6年）

6年生は、9月に「長寿を祝う会」に参加した。山ノ内町も高齢化率が急上昇している現状がある。しかし、それは問題とはとらえずに、年をとっても元気に過ごせる街にしたいと子どもたちは考えている。お年寄りが元気に楽しく過ごすために必要なこと。それは、コミュニティであり、相手の存在だと考えたこともたちは、焼き物を行うことにして、「湯呑み茶碗」をプレゼントすることにした。お茶を飲みながらお年寄りが、友だちと会話を交わす、湯呑みを見ながら、子どもたちとのつながりを感じる、湯呑みを通してそんなつながりが生まれ、お年寄りも子どもも、より元気に過ごせるのではないかと考え焼き物に取り組んでいる。さらにその経験をもとに、「子ども議会」において町で焼き物に関する行事を計画してはどうかと提案した。

(2) 活動の詳細

① 活動内容

山ノ内町立南小学校

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

☐ 1. 環境	☐ 2. エネルギー	☐ 3. 防災	☐ 4. 生物多様性
☐ 5. 気候変動	☐ 6. 国際理解、文化多様性	☒ 7. 地域の伝統文化、文化遺産	☐ 8. 人権・平和
☒ 9. 健康・福祉	☒ 10. 食育	☒ 11. 持続可能な生産と消費	☐ 12. 貧困
☐ 13. エコパーク	☐ 14. ジオパーク	☐ 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
☐ 16. ジェンダー平等	☐ 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

☒ 1. 批判的に考える力	☐ 2. 未来像を予測して計画を立てる力
☐ 3. 多面的、総合的に考える力	☒ 4. コミュニケーションを行う力
☒ 5. 他者と協力する態度	☐ 6. つながりを尊重する態度
☐ 7. 進んで参加する態度	
☐ 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

☒ 1. 教科の時間	☒ 2. 総合的な学習の時間
☒ 3. 特別活動等	☐ 4. クラブ活動

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

--

- ② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

全学年で ESD カレンダーを作成した。それを基に夏休みに全職員で研修会を行い、今後の構想を練っていく。その中で、教科・領域間の関連性を見直し、それぞれの教科・領域、単元がどのようにつながり、どのように学べば系統的にかつ、子どもの意識に沿って学習を進めることができるのか考えた。また、作成した ESD カレンダーは構想段階から実際の活動でどのように変化したかが分かるように更新を行っていく。さらにコミュニティスクール運営委員会と連携し 7 月に全校で「かがやきタイム」と称して、地域を知り、地域を学ぶ活動を行った。

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。（２００字程度）

※チェック事項 1-4 に対応

各学年で中核的な活動を作り、子どもと教師が共に思いをかける対象とのかかわりを大事に考えて ESD に取り組んでいる。また、上にも書いたコミュニティスクール運営委員会との連携を密にし、教師だけでは難しい活動に地域の協力を得やすい環境を整えている。校内の研修で ESD を取り上げ、全職員に理解を高めようとしている。

保護者にも ESD や SDG s への理解を進めるように懇談会で取り上げた。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価（内部／外部）の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。（２００字程度）

※チェック事項 1-5 に対応

児童、保護者、職員にアンケートをとり内部評価を行う中で、地域とのかかわりや地域からの学びが子どもたちのよりよい育ちにつながっている手応えをもてた。その後、学校関係者評価委員会によって、外部評価を行った。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。（２００字程度）

※チェック事項 2-2 に対応

昨年に引き続き、２年生の教室に「えさに困っていないか」と心配される地域の方が、野菜を届けてくれることがあった。

今年度は、今のところ発信する場が少ない（発信したい内容が深まってきていない）ことが課題である。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成（地域コミュニティ、大学、ESD 活動支援センター、ESD コンソーシアムとの連携など）（２００字程度）

信州 ESD コンソーシアムに協力をしていただき校内研修を実施した。そこで ESD カレンダーの作成，年間カリキュラムの検討を行った。
ESD 活動支援センターの主催の研修も紹介し，参加した職員もいた。

⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）
※チェック事項 2-4 に対応

山ノ内町はすべての小中学校がユネスコスクールに登録されていることがあり，町内での交流がユネスコスクールの交流にもなっている。町の職員会や同学年会で情報交換を行っている。さらに，各校の研修に他校の職員が参加するなどの交流を行った。現段階では児童間の交流は十分ではないだろう。ただ，ESD コンソーシアム成果発表会の中で，他校と活動の様子を見あうことができた。

⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

これまでの学校の教育活動の意味を改めて見直す機会を得ることができている。また，全国大会などに参加する中で，他校の実践に学ぶこともこれまで以上にしやすくなっている。教員が SDGs や GAP への理解を深めることで，子どもたち自身が，今取り組んでいることと，未来がどうつながるかの意識を向けることへとつながっているように思う。

志賀高原ユネスコエコパークにおける ESD/SDGs の実践事例

①団体名・連絡先等

団体名：信州 ESD コンソーシアム

担当者：水谷瑞希 (mmizuki@shinshu-u.ac.jp)

連絡先：〒381-0401 長野県下高井郡山ノ内町平穏 7148 信州大学教育学部附属志賀自然教育研究施設

②志賀高原ユネスコエコパークにおける ESD/SDGs の概要

1. ユネスコエコパーク（生物圏保存地域）と ESD/SDGs

ユネスコエコパークは、ユネスコの MAB 計画(Man and the Biosphere Program：人間と生物圏計画)達成のために設定された、国際的な登録保護地区である。MAB 計画は人間と自然との共生、自然資源の持続可能な利用と保全を促進するための科学研究、教育、研修を行う事業であり、ユネスコエコパークはそのモデル地域と位置づけられている。この登録地域はもともと生物圏保存地域（BR: Biosphere Reserve）と呼ばれていたが、より親しみやすい名称として、日本国内では 2010 年から「ユネスコエコパーク」と呼称されるようになった。現在、世界には 124 の国と地域に 701 の生物圏保存地域が登録されており、そのうち国内のユネスコエコパークは 10 地域である。

ユネスコエコパークは、自然環境や生態系を守りつつ、それらを有効に活用しながら地域や社会が発展することを目指した「自然と人間社会の共生」を実践するモデル地域として位置づけられている。このため近年では、持続可能な社会の構築、すなわち SDGs 達成のモデル地域としても注目されている。

ユネスコエコパークには豊かな自然環境だけでなく、持続可能な社会のヒントとなるような伝統的な自然利用や文化、自然環境を維持するための取り組みなどの学びの資源が豊富にあることから、ESD の学びのフィールドとして注目される。またユネスコエコパークには、「保存機能、学術的研究支援（教育・研修を含む）、経済と社会の発展」という 3 つの機能を発揮することが期待されているが、これらはいずれも持続可能性に関わる課題であり、ESD はそれらを実現する手段として、また活動そのものの「エンジン（駆動因）」として位置づけられる。

2. 志賀高原ユネスコエコパークにおける ESD/SDGs の実践

ア. 域外の学校に対する ESD/SDGs

志賀高原は国内有数のスノーリゾートとして知られているが、グリーンシーズンには各種学校の高原学習・宿泊学習での利用も多い。志賀高原観光協会・ガイド組合では 2013 年から、おもに緩衝地域において、各種学校を対象に ESD の視点を持った「環境学習プログラム」を提供している。この環境学習プログラムは ユネスコエコパークのフィールドを活かして、事前学習、野外学習、振り返り学習という一連の流れを通して、自然と人間社会の共生について考えることができる内容となっている。さらに近年の学校での SDGs ニーズの増加に併せて、観光事業者の中でも SDGs への対応機運が高まってきたことから、今年度から「SDGs 達成のモデルサイトとしてのユネスコエコパーク」に焦点を当てたプログラムの試行を開始した。これにより観光面では学校誘客のさらなる増加が期待できるほか、学校教育においても、従来は独立した特活としての扱いに留まりがちであった志賀高原での高原学習が、SDGs を軸とした継続的なカリキュラムの一環として位置づけられるようになることが期待される。

イ. 域内の学校での ESD/SDGs

志賀高原ユネスコエコパークでは、移行地域に位置するすべての小中学校が ESD に取り組んでおり、またその推進拠点と位置づけられるユネスコスクールに加盟している。志賀高原ユネスコエコパークの核心地域や緩衝地域で高原学習などの特活が行われるほか、移行地域である学区内ではさまざまな地域資源を活かした地域学習など、ESD の視点に立った学習活動が実践されている。これらの学校での ESD の学びを支援するため、信州大学が中心となって 2017 年 2 月に『信州 ESD コンソーシアム』を設立し、教職員を対象とした ESD 研修会や、子どもたちの学習成果の発表・交流会を開催するなどの取り組みを行っている。

ウ. ユースに対する ESD/SDGs

信州大学教育学部附属志賀自然教育研究施設（以下、志賀施設）は、日本で唯一、ユネスコエコパークの核心地域に隣接する緩衝地域に位置する、ユニークなレジデント型研究機関である。志賀施設では、おもに信州大学教育学部の学生を対象とした野外実習が開講されている。信州大学の志賀高原における野外実習の歴史は古く、その始まりは 1963 年の生物学実習まで遡る。現在は教育学部の必修科目「環境教育」の一環として、自然教育実習が開講されているが、教員養成課程で自然教育実習を必修授業として位置づけている例は珍しく、この実習は豊かな自然環境に恵まれた信州にある大学ならではの特徴といえる。信州大学は長野県において教員養成を担う中核となる大学であることから、長野県ではほぼすべての学校に、志賀高原での自然教育実習を経験した教員が配置されている。また近年では、環境教育の講義でも ESD/SDGs を重点的に取り上げている。

エ. 市民に対する ESD/SDGs

志賀高原ユネスコエコパークの中核自治体である山ノ内町では、ユネスコエコパークに対する市民の理解を深め、その理念に沿った多様なステークホルダーによる主体的な活動を推進することを目的として、「志賀高原ユネスコエコパークセミナー」を開講している。このセミナーではユネスコエコパークの制度や自然史、地域振興、SDGs などに関する講義のほか、地域資源探索のフィールドワークやワークショップなどが行われている。現在では、このセミナーを契機とした活動の「芽」も育ちつつある。

③ESD/SDGs に取り組んでの成果と課題

志賀高原ユネスコエコパークでは、その活動を活性化させる鍵として ESD に着目し、その振興に取り組んできた。その結果、学校現場においては ESD がすべての学校で定着し、積極的に SDGs も取り入れながらその実践を進めることで、その学びを外部に発信できる段階にまで入りつつあるほどに、急速な発展を遂げた。小中学校を通して ESD/SDGs の学びを通じてユネスコエコパークの理念を共有し、また持続可能な社会づくりの担い手に必要な資質や能力を身につけた子どもたちが育ちつつあることは、近い将来、必ずや地域の大きな力となるであろう。

これらの学びをさらにステップアップする上での課題は二点、挙げられる。一つは学校間連携の強化である。現在、学校間の教員が情報共有する機会は限られており、その学びが十分に一体化しているとは言えない。学校間を跨ぐ教員の連絡組織を構築し、学校・校種間の連携を強化することが必要である。二つ目は学校間交流の活性化である。現在の学校間交流は県内での実施に留まっていることから、国内他地域や海外のユネスコエコパーク（生物圏保存地域）の学校との交流が行われるようになることが期待される。

		スモールグループ分け		
	スモールグループ	役 職	氏 名	所 属 先
1	A	教務主任	善光 幸代	富山市立五福小学校
2	B	教諭	石坂 友輔	富山市立堀川小学校
3	C	教務主任	津幡 和英	富山市立奥田北小学校
4	D	教諭	宮田 直子	富山市立中央小学校
5	E	教諭	曲師 ひとみ	南砺市立福野小学校
6	F	教諭	柿埜 由紀子	高岡市立成美小学校
7	A	臨任講師	森谷純子	氷見市立朝日丘小学校
8	B	自然科学コース部 部長	竹内 元人	富山県立富山東高等学校
9	C	学生(4年)	押田 彩華	富山国際大学
10	D	指導主事	浅野 薫史	富山市教育委員会 学校教育課
11	E	コーディネーター・副会長	水上 庄子	富山ユネスコ協会
12	F	教諭	藏 幹子	金沢市立兼六小学校
13	A	教諭	廣瀬 健介	平泉寺小学校
14	B	教諭	島田 洋子	成器南小学校
15	C	教諭	齋藤 珠樹	成器西小学校
16	D	教諭	林 裕美	村岡小学校
17	E	教諭	松浦 綾香	三室小学校
18	F	教諭	高崎 実佳	荒土小学校
19	A	教諭	寺島 亮太	鹿谷小学校
20	B	教諭	飯野 正樹	北郷小学校
21	C	教諭	臼井 孝礼	勝山南部中学校
22	D	教諭	宮口 了	勝山中部中学校
23	E	教頭	金巻 健朗	勝山北部中学校
24	F	指導主事	安居 幸恵	勝山市教育委員会
25	A	教諭	三谷 暢子	名古屋市立菊井中学校
26	B	教諭	直江 鉄平	いづな学園グリーン・ヒルズ小学校
27	C	教諭	林 功将	山ノ内町立南小学校
28	D	助教	水谷 瑞希	信州大学教育学部
29	E	理事	豊原 菊生	石川県ユネスコ協会
30	F	コーディネーター・教授	成瀬 喜則	富山大学大学院教職実践開発研究科
31	A	コーディネーター・教育長	松本 謙一	南砺市教育委員会
32	F	発表者	尾島 良幸	舟橋村立舟橋小学校
33	C	コーディネーター・准教授	河内 幾帆	金沢大学国際基幹教育院
34	D	コーディネーター・教授	新 広昭	金沢星陵大学経済学部
35	E	コーディネーター・講師	福江 厚啓	北陸学院大学人間総合学部
36	A	コーディネーター	池端 弘久	
37	B	コーディネーター・准教授	松山 友之	富山国際大学子ども育成学部
38	B		中川 隆政	東京都産業労働局 農林水産部
		はファシリテーターをお願いします		